

令和7年度 介護環境科教育課程(1年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授形態	時間数
教養科目	ホームルーム活動Ⅰ	演習	60
	ホームルーム活動Ⅱ	演習	60
	情報技術	演習	30
	自然と環境	演習	30
	障害者とスポーツⅠ	演習	30
	障害者とスポーツⅡ	演習	30
	国家試験対策Ⅰ	講義	30
	国家試験対策Ⅱ	講義	30
	国家試験対策Ⅲ	講義	30
	文章表現	演習	30
	アクティビティ・ケアⅠ	演習	30
	アクティビティ・ケアⅡ	演習	30
人間と社会	人間の尊厳と自立	講義	30
	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義・演習	30
	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義・演習	30
	社会の理解Ⅰ	講義	30
	社会の理解Ⅱ	講義	30
	生活と音楽	講義	30
	児童福祉論	講義	30
	地域福祉論	講義	30
	視覚障害者・聴覚障害者の支援	演習	30
	介護福祉論Ⅰ	講義	60
介護	介護福祉論Ⅱ	演習	30
	介護福祉専門職論	講義	60
	リスクマネジメント論	講義	30
	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30
	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30
	生活支援技術Ⅰー①	演習	30
	生活支援技術Ⅰー②	演習	30
	生活支援技術Ⅰー③	演習	30
	生活支援技術Ⅱー①	演習	90
	生活支援技術Ⅱー②	演習	60
	生活支援技術Ⅲ	演習	30
	認知症の人の支援	演習	30
	介護過程Ⅰ	演習	90
	介護過程Ⅱ	演習	30
	介護過程Ⅲ	演習	30
	介護実習指導Ⅰ	演習	90
	介護実習指導Ⅱ	演習	30
	介護実習Ⅰ	実習	250
	介護実習Ⅱ	実習	200
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	講義	30
	発達と老化の理解Ⅱ	講義	30
	認知症の理解Ⅰ	講義	30
	認知症の理解Ⅱ	講義	30
	障害の理解Ⅰ	講義・演習	30
	障害の理解Ⅱ	講義・演習	30
	こころとからだのしくみⅠ	講義・演習	60
医療的ケア	こころとからだのしくみⅡー①	講義・演習	30
	こころとからだのしくみⅡー②	講義・演習	30
	医療的ケア	講義	50
	医療的ケア演習	演習	
実務経験のある教員等による授業時数合計			770

令和7年度 介護環境科教育課程(2年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授形態	時間数
教養科目	ホームルーム活動Ⅰ	演習	60
	ホームルーム活動Ⅱ	演習	60
	情報技術	演習	30
	自然と環境	演習	30
	障害者とスポーツⅠ	演習	30
	障害者とスポーツⅡ	演習	30
	国家試験対策Ⅰ	講義	30
	国家試験対策Ⅱ	講義	30
	国家試験対策Ⅲ	講義	30
	文章表現	演習	30
	アクティビティ・ケアⅠ	演習	30
	アクティビティ・ケアⅡ	演習	30
人間と社会	人間の尊厳と自立	講義	30
	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義・演習	30
	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義・演習	30
	社会の理解Ⅰ	講義	30
	社会の理解Ⅱ	講義	30
	生活と音楽	講義	30
	児童福祉論	講義	30
	地域福祉論	講義	30
	視覚障害者・聴覚障害者の支援	演習	30
	介護福祉論Ⅰ	講義	60
介護	介護福祉論Ⅱ	演習	30
	介護福祉専門職論	講義	60
	リスクマネジメント論	講義	30
	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30
	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30
	生活支援技術Ⅰー①	演習	30
	生活支援技術Ⅰー②	演習	30
	生活支援技術Ⅰー③	演習	30
	生活支援技術Ⅱー①	演習	90
	生活支援技術Ⅱー②	演習	60
	生活支援技術Ⅲ	演習	30
	認知症の人の支援	演習	30
	介護過程Ⅰ	演習	90
	介護過程Ⅱ	演習	30
	介護過程Ⅲ	演習	30
	介護実習指導Ⅰ	演習	90
	介護実習指導Ⅱ	演習	30
	介護実習Ⅰ	実習	250
	介護実習Ⅱ	実習	200
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	講義	30
	発達と老化の理解Ⅱ	講義	30
	認知症の理解Ⅰ	講義	30
	認知症の理解Ⅱ	講義	30
	障害の理解Ⅰ	講義・演習	30
	障害の理解Ⅱ	講義・演習	30
	こころとからだのしくみⅠ	講義・演習	60
医療的ケア	こころとからだのしくみⅡー①	講義・演習	30
	こころとからだのしくみⅡー②	講義・演習	30
	医療的ケア	講義	50
	医療的ケア演習	演習	
実務経験のある教員等による授業時数合計			540

※ 青字・ゴシック体・網掛けの授業科目は、今年度開講する講義。

※ 時間数欄で、黄色網掛けの授業科目は、今年度開講する講義のうち実務経験のある教員等によるもの。

## ■ 成績評価について

成績は、科目の内容によりますが、筆記試験、実技試験、レポート、受講態度（学修意欲）、出席状況等を総合して100点満点で評価し、60点以上を合格として単位を認定しています。

評定と点数の関係は下記のとおりです。

秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満

なお、各科目の評価の合計点の平均（100点満点）を算出し、成績の分布状況を把握しています。

## ■ 卒業認定について

卒業に必要な単位数等の規定は、学則第11条に示されています。

卒業認定は、科目ごとの評価一覧表に基づき、「卒業・進級判定会議」において、各科目の単位の認定状況を確認し、協議の上、判定しています。

翌年度の認定の方針等については、年度末に職員会議等で協議の上、策定しています。

介護環境科 1 年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動 I		演習	2	通年	長谷 由香
授業の目標	1. 集団での関りを通し、対人援助職として必要な素養を習得する。 2. 自己理解をすすめ、コミュニケーション能力の向上を図る。 3. 自己を表現する力を身につけ、チームワークを発揮する体験から、チームマネジメントできる能力を養う。 4. 自己と他者との違い、異なる価値観の存在を受け止め、信頼関係の構築について実践し学ぶ。				
授業の概要	介護福祉士には、コミュニケーションスキルの向上、多職種協働によるチームケアにおけるリーダーシップを発揮するための実践力の向上、また、介護に関する知識・技術を習得し、個々の利用者に柔軟に対応する能力の向上が求められています。 当科目では、自然体験や学校行事などの場において、個々が主体的に考え行動することを意識化し、それぞれが自己表現し価値観の違いが感じられることを大切に授業すすめます。それらの経験を通して、コミュニケーション能力・共感力を高めることを目指し、介護福祉士の役割において重要な『人間理解』について必要なスキルを深めることを目指します。				
授業計画	学習内容・テーマ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・教務ガイダンスの実施</li> <li>・サポステセミナー（自己理解他）の実施</li> <li>・クラス活動（自然体験他）の計画打ち合わせ及び実施</li> <li>・学生会行事、学校行事への参加および実施</li> </ul>				
評価方法		授業態度、協調性、積極性等を重要視し、総合的に判断する。			
テキスト					
参考文献					
留意事項		＊内容が変更になる場合があります。			



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
情報技術		演習	1	前期	大坪 千草
授業の目標	インターネットの普及により、会社はもちろん病院・学校・公共機関においてパソコン・タブレット・スマートフォン等との連携は必要不可欠なものとなり、同時に利用者のパソコンスキルもより高度なものが必要とされています。福祉の現場においても例外ではありません。本講義（演習）では、インターネット・各デバイス・office アプリケーションについての基本的な知識・技術の習得を目的とします。更に、自己表現の学習と発表能力の向上の為、PowerPoint を使用してのプレゼンテーションも行います。				
授業の概要	①パソコンの基礎 ②インターネット（接続デバイス）・メール ③Word ④Excel ⑤PowerPoint				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	受講生のスキル（能力）を把握するアンケート。パソコンのガイダンス（入門的説明）			
	2	インターネットの仕組み・セキュリティの必要性・インターネットのルール			
	3	個人メールの作成と送受信、又は HP/SNS/BLOG の違いを理解する			
	4	Word（文書作成）の基礎 1（文字入力・文字装飾）			
	5	Word（文書作成）の基礎 2（行と段落・ファンクションキー・ショートカットキー）			
	6	Word（文書作成）の基礎 3（表作成・図の挿入）			
	7	Word（文書作成）の基礎 4（業務文書の作成）			
	8	Excel（表計算）の基礎 1（オートフィル・フィルタ・ソート）			
	9	Excel（表計算）の基礎 2（数式・関数）			
	10	Excel（表計算）の基礎 3（数式・関数・グラフ）			
	11	Excel（表計算）の基礎 4（業務出勤表の作成）			
	12	PowerPoint（プレゼンテーション）の基礎 1（各自のテーマ）			
	13	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
	14	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
	15	PowerPoint（プレゼンテーション）個人発表			
評価方法		受講態度・課題の提出・最終発表（PowerPoint）			
テキスト		テキストはこちらで作成。プリントを依頼します。			
参考文献					
留意事項		スタート時のスキルの違いが大きい場合、各個人の上達具合を考慮する。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
自然と環境		演習	1	前期	諫山 邦子 長谷 由香 大西 英一
授業の目標	・ 自然の中でさまざまな体験を通して命の大切さについて学ぶ。加えて、介護福祉士に必要な感性を養い、同時に環境とは何かを学ぶ ・ グループ活動を通して主体性やチームワークの大切さを学ぶ				
授業の概要	・ 自然の中で動植物などに触れ合う活動をし、命について考える機会をもち、自然を通じ他者と触れ合う中で感性を育て、自己を表現する場を持つことを目指す。 ・ 介護福祉士が習得すべき「環境（自然、人的、物的等）」とは何かを考えるための視点について、様々な地域の自然環境や生活する人々に触れ体験することで視野を広げ、柔軟な思考が身につくことを目的とする。				
授業計画	回	学習内容・テーマ		内容	
	1	特色ある釧路の自然【座学】			
	2	校外研修（釧路市立博物館）		校外	
	3	春採湖と武佐の森【座学】			
	4	校外研修 巡検①（武佐の森）		校外	
	5	校外研修 巡検②（春採湖）		校外	
	6	校外研修（和商市場）釧路の水産物とその利用		校外	
	7	釧路湿原国立公園【座学】			
	8	校外研修 一野生動物保護センター 一温根内湿原センター		校外	
	9				
	10	阿寒摩周国立公園と国定公園【座学】			
	11	校外研修 ビオトープの森と森の活用		校外	
	12	釧路の湿原と石炭【座学】			
	13	校外研修 巡検③（もりんどの森）			
	14	校外学習 釧路川カヌー体験		校外	
15					
評価方法		受講態度、レポート課題			
テキスト		プリント資料配布			
参考文献					
留意事項		校外学習時は、事故や怪我のないよう留意する。 内容が変更となる場合があります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害者とスポーツⅠ		演習	1	前期	山本 悟 高瀬 勝洋
授業の目標	<p>障がい者とスポーツについていくつかの種目を実践しながら、指導実践に必要な基礎的・実践的な考え方と進め方について習熟する。（山本）</p> <p>障がいのある人が、スポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫の仕方や、指導員としての留意点、接し方について実技を通して学ぶ。（高瀬）</p>				
授業の概要	<p>障がい者とスポーツの関係をみつめ、実施者の感覚に立脚した動きの指導法について学習する。そこでは、障害者スポーツ指導教本に基づきながら、理論的な学習を進めるとともに、実技実習を通して、障害者スポーツの指導に関わる、基礎能力を育成する。（山本）</p> <p>集中講義：障がいの分類とスポーツ・指導者の種類と役割&lt;講義&gt; 各パラスポーツ&lt;実技&gt;（高瀬）</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション／障害者とスポーツの概論			
	2	障がい者スポーツにおけるゴール型ゲーム①			
	3	障がい者スポーツにおけるゴール型ゲーム②			
	4	障がい者スポーツにおけるゴール型ゲーム③			
	5	障がい者スポーツにおけるネット型ゲーム①			
	6	障がい者スポーツにおけるネット型ゲーム②			
	7	障がい者スポーツにおけるネット型ゲーム③			
	8	障がい者スポーツにおけるベースボール型ゲーム①			
	9	障がい者スポーツにおけるベースボール型ゲーム②			
	10	障がい者スポーツにおけるベースボール型ゲーム③			
	11	障がい者スポーツにおけるスポーツ大会			
	12	パラスポーツの意義と理念：パラスポーツの理念や身体的、精神的効果、共生社会の創造を学ぶ（集中）			
	13	障害のある人との交流：実技を通し、コミュニケーション、スポーツの必要性、意義や価値について学ぶ（集中）			
	14				
	15	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫：各障がい特性に応じた工夫や指導員としての留意点・接し方について学ぶ（集中）			
評価方法		出席状況、授業での活動状況、レポートにより総合的に評価する。			
テキスト		必要に応じて資料を配布する。			
参考文献		日本障害者スポーツ協会（2012）障害者スポーツ指導教本 初級・中級〈改訂版〉ぎょうせい：東京。植木ら（2017）アダプテッド・スポーツ概論 東京教学社：東京			
留意事項		実技実習を行うゆえ運動に適した最適な服装で出席すること。 受講者の状況によって内容の順番をかえたり、アレンジをしたりする。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
国家試験対策Ⅰ		講義	2	後期	金子 一也 高橋 功成 匹田 美紀子
授業の目標	急速な高齢化と世帯構造の変化や、推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会的な介護ニーズの増大に介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。介護福祉士を取得することを目標とした各学生の目標達成と、この時代の要請に応える介護の専門職である介護福祉士を1人でも多く輩出することを目標とする。（生活支援技術）				
	急激な少子高齢化に伴う人口バランスの変化や推計を越えた認知高齢者や低所得高齢者、さらには、老老介護や8050問題等様々な社会問題によって、介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。介護福祉士の資格取得を目標として各学生が目標を持ち、社会から期待されている専門職として貢献できるよう学習を進めていく。（社会の理解・障害の理解）				
授業の概要	介護福祉士の専門性と実践の根拠として必要な社会と制度のしくみを日々の講義で学ぶことを前提として、その学びを介護福祉士国家試験の合格に結びつけるための受験対策の授業とする。				
	具体的にはこれまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつくための授業とする。国家試験の受験対策としての基礎的な内容とする。（生活支援技術）				
授業計画	介護福祉士の専門性として知識、技術の基礎を理解した上で、介護福祉士国家試験合格に結び付けるための受験対策の授業とする。具体的には、これまでの国家試験の出題傾向や、介護福祉士が持つ倫理観を理解し、介護福祉士国家資格の取得に結び付けるための授業とする。（社会の理解・障害の理解）				
	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・生活支援技術①（匹田）	9	介護の基本④（高橋）	
	2	生活支援技術②（匹田）	10	介護の基本⑤（高橋）	
	3	生活支援技術③（匹田）	11	障害の理解①（金子）	
	4	生活支援技術④（匹田）	12	障害の理解②（金子）	
	5	生活支援技術⑤（匹田）	13	障害の理解③（金子）	
	6	介護の基本①（高橋）	14	障害の理解④（金子）	
	7	介護の基本②（高橋）	15	障害の理解⑤（金子）	
8	介護の基本③（高橋）				
評価方法		過去問題及び模擬問題による目標の達成度、習熟度を評価する。			
テキスト		介護福祉士国試ナビ2025、プリント 最新・介護福祉士養成講座（第2版）2 社会の理解、3 介護の基本Ⅰ、4 介護の基本Ⅱ			
参考文献		社会福祉士国試ナビ2025、介護福祉士過去問題集・介護福祉士模擬問題集他			
留意事項		提出物は、期限を厳守してください。 ノート・プリント・配布資料は終講まで保管し、毎講持参してください。			

※実務経験のある教員

金子（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士／障がい者支援施設勤務）  
高橋（社会福祉士、知的障害福祉司任用資格、児童指導員／老人福祉施設勤務）  
匹田（介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
文章表現		演習	1	後期	横内 俊郎
授業の目標	1. 文章を書くための基本的な決まりや約束事について理解することができる。(知識・理解) 2. 読み手の気持ちを意識しながら、正しく読みやすい文章を書くことができる。(技能・表現) 3. 書くことに興味をもち、意欲的・主体的に文章を書くことができる。(関心・態度)				
授業の概要	本講では、受講者それぞれの経験や能力をふまえながら、書き手の意図が読み手に正しく伝わる文章の作成のため、書くことを重視した実践的な学習を進める。その過程で、受講者が自らの文章表現の改善に意欲をもって取り組もうとする態度の育成をめざす。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 文章表現の意義と課題			
	2	文章表現上の留意点 作品①執筆（題未定）			
	3	作品①の交流Ⅰ 相互批正、及びその方法			
	4	作品①の交流Ⅱ 共同批正、及びその方法			
	5	文章構成・推敲の重要性と方法			
	6	客観性と説得力のある意見文の書き方			
	7	作品②「意見文」の取材・構成・執筆			
	8	作品②の交流Ⅰ 相互批正			
	9	作品②の交流Ⅱ 共同批正、推敲、清書			
	10	『介護実習報告書』の作成要領Ⅰ			
	11	『介護実習報告書』の作成要領Ⅱ			
	12	作品③『実習で学んだこと』構想・執筆			
	13	作品③の交流 相互批正			
	14	作品③の推敲・清書			
	15	学習のまとめ～ミニ文集の作成			
評価方法		・作文の意義（知識・理解）、実作文（技能・表現）・日常の学習状況（関心・態度）			
テキスト		・本講で使用する資料及び印刷物等は、すべて担当者が準備。			
参考文献		・過年度『介護実習報告書』			
留意事項		・学習の進捗状況と受講生の実態に応じて、学習内容を変更することがある。 ・課題（宿題）を課すことがある。 ・教室のほか、視聴覚室を使用する。その際、ノート PC の保有者は、持参する。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
アクティビティ・ケアⅠ		演習	1	後期	桂 裕二 豊島 節子 佐藤 瑠美子
授業の目標	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、アクティビティ・ケアの実際を学ぶ。その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのかを理解できるよう、できるだけ実践例を取り上げて、学生一人一人が自ら取組み、体験し、実践につなげられるようにする。				
授業の概要	高齢者のＱＯＬ（生活の質・人生の質）を高め、ＡＤＬ（日常生活動作）を維持することは、人生のフィナーレを輝かせるために大切なものです。特に介護予防や、要介護の高齢者、障がい者に人生を楽しんでいただくためには、身体の栄養だけではなく心の栄養も必要なのです（「高齢者の楽楽アクティビティ・ケアの進め方」より）。そのための様々な活動をコミュニケーションスキルと計画に基づいて実践する「アクティビティ・ケア」について理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	講師	学習内容・テーマ	
	1	トイ理論	桂	9/26（金）4 講目	
	2	ステンシル①	豊島	10/10（金）3 講目	
	3	ステンシル②	豊島	10/10（金）4 講目	
	4	紙芝居	豊島	10/17（金）3 講目	
	5	実践参加	豊島	10/17（金）4 講目	
	6	毛糸①	桂	10/24（金）3 講目	
	7	毛糸②	中宇禰	10/24（金）4 講目	
	8	アンデルセン①	桂	11/28（金）3 講目	
	9	アンデルセン②	桂	11/28（金）4 講目	
	10	華道①	佐藤	12/4（木）2 講目	
	11	華道②	佐藤	12/11（木）2 講目	
	12	アンデルセン③	桂	12/12（金）3 講目	
	13	華道③	佐藤	12/18（木）2 講目	
	14	華道④	佐藤	12/22（月）1 講目	
	15	まとめ（レポート）	豊島	12/22（月）3 講目	
評価方法		受講態度、取り組み姿勢、レポート、発表を総合的に評価する			
テキスト		高齢者の楽楽アクティビティ・ケアの進め方（仮）			
参考文献					
留意事項		シラバス内容・順番に変更があるかもしれません。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間の尊厳と自立		講義	2	前期	佐々木 幸子
授業の目標	介護の知識や技術などの専門性を高めることは介護福祉士として、重要不可欠なものである。この科目では、全人的な人間の理解と、人と人との共に尊厳を護りあう大切さを理解し、対象者の自立（自律）した生活への支援、権利擁護を基本とした支援を実践できる専門職としての土台作りとしたい。				
授業の概要	人の尊厳 人と人との認め合う尊厳を考える機会となるような授業とする。 福祉現場、介護現場での尊厳の尊重と保持、又自立と自律の支援場面の事例から気づきと理解を得る授業とする。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	人間の尊厳と人権①			
	3	人間の尊厳と人権②			
	4	福祉理念の変遷			
	5	社会福祉領域での人権			
	6	人権尊重と権利擁護①			
	7	人権尊重と権利擁護②			
	8	介護保険法における尊厳と自律			
	9	自立の概念の多様性			
	10	自立支援に必要な視点			
	11	介護における自己決定と自立支援			
	12	自立への意欲と動機			
	13	介護における尊厳保持の実践			
	14	介護における自立支援の実践			
	15	筆記試験			
	16	まとめ			
評価方法		出席数、受講態度、提出物、筆記試験等の総合的評価			
テキスト		最新 介護福祉養成講座 I 人間の理解 中央法規			
参考文献		随時提示			
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係とコミュニケーション I		講義・演習	2	後期	佐々木 幸子
授業の目標	福祉の仕事は自分と対象者との信頼関係によって成立する。その対象者となる利用者との関係づくりはコミュニケーションから始まる。また対人援助を行う組織運営が円滑にいくためにコミュニケーションは重要である。そのためにコミュニケーションについての知識を深め、理解し、個別に具体的にコミュニケーション技術を学ぶ。				
授業の概要	コミュニケーションはその人の状態や環境によって違いがあることを理解し、そのためには自己覚知のために振り返りを重視し、傾聴すること、共感することができるよう演習などを通して学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	自分と他者の理解			
	3	発達心理学からみた人間関係			
	4	社会心理学からみた人間関係			
	5	人間関係とストレス			
	6	コミュニケーションの概念			
	7	コミュニケーションの手段			
	8	コミュニケーションを促す環境			
	9	コミュニケーション技法と実践			
	10	対人援助関係とコミュニケーション			
	11	対人援助における基本的態度			
	12	援助的人間関係の形成			
	13	組織におけるコミュニケーション			
	14	組織において求められるコミュニケーション			
	15	筆記試験			
	16	まとめ			
評価方法		出席数、受講態度、提出物、筆記試験等の総合的評価			
テキスト		最新 介護福祉養成講座 I 人間の理解 中央法規出版			
参考文献		随時提示			
留意事項					



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会の理解 I		講義	2	前期	酒井 賢一
授業の目標	<p>急速な少子高齢化により、地域社会の機能や世帯構造を急速に変化させ、様々な社会保障上及び社会福祉上の様々な課題が生じている。その課題の中にある介護福祉ニーズに介護福祉士の存在とその実践が求められる。</p> <p>介護福祉士が視座を高め視野を広げて、介護福祉の専門性で使命を果たすために、社会保障を理解して介護を実践することができる介護福祉士を要請する。（社会の理解Ⅱと共通）</p>				
授業の概要	<p>社会の中に存在する「人と生活」を基本として、家族、地域社会、社会組織を理解し介護実践に結びつける。そのために社会保障制度の全般を学び、その上で社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生等、具体的な諸制度のあり方と仕組みや介護保険制度等を学ぶ。</p> <p>また介護実践にかかわる権利擁護の諸制度、保健医療や医療にかかわる法律、生活保護制度など生活を支える諸制度を学び、社会保障全般を理解した介護・支援の社会を支える介護の実践力を高める。（社会の理解Ⅱと共通）</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・科目のねらいと概要 生活と社会のしくみ①（基本機能）			
	2	〃 ②（家族の機能と役割）			
	3	〃 ③（社会・組織・地域）			
	4	〃 ④（地域社会における生活支援）			
	5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策			
	6	〃 （地域包括ケア）			
	7	社会保障制度①（基本的な考え方）			
	8	社会保障制度②（制度の発達）			
	9	社会保障制度③（制度のしくみ）			
	10	社会保障制度④（現代社会と社会保障）			
	11	高齢者保健福祉と介護保険制度①（動向）			
	12	高齢者保健福祉と介護保険制度②（法体系）			
	13	介護保険制度①（創設の背景と目的）			
	14	介護保険制度②（しくみの基本的理解）			
	15	前期の学習内容のふりかえり			
評価方法		テストによる評価と授業への向き合い方を総合的に評価する。			
テキスト		最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 2 第2版			
参考文献		介護福祉士国試ナビ			
留意事項		テストは上記以外の回で実施する。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会の理解Ⅱ		講義	2	後期	酒井 賢一
授業の目標	<p>急速な少子高齢化により、地域社会の機能や世帯構造を急速に変化させ、様々な社会保障上及び社会福祉上の様々な課題が生じている。その課題の中にある介護福祉ニーズに介護福祉士の存在とその実践が求められる。</p> <p>介護福祉士が視座を高め視野を広げて、介護福祉の専門性で使命を果たすために、社会保障を理解して介護を実践することができる介護福祉士を養成する。（社会の理解Ⅱと共通）</p>				
授業の概要	<p>社会の中に存在する「人と生活」を基本として、家族、地域社会、社会組織を理解し介護実践に結びつける。そのために社会保障制度の全般を学び、その上で社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生等、具体的な諸制度のあり方と仕組みや介護保険制度等を学ぶ。</p> <p>また介護実践にかかわる権利擁護の諸制度、保健医療や医療にかかわる法律、生活保護制度など生活を支える諸制度を学び、社会保障全般を理解した介護・支援の社会を支える介護の実践力を高める。（社会の理解Ⅰと共通）</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	介護保険制度①（基本的理解）			
	2	介護保険制度②（基本的理解）			
	3	介護保険制度③（基本的理解）			
	4	介護保険制度④（基本的理解）			
	5	介護保険制度⑤（基本的理解）			
	6	介護保険制度⑥（組織、団体の役割）			
	7	介護保険制度⑦（組織、団体の役割）			
	8	介護保険制度⑧（介護支援専門員の役割）			
	9	介護保険制度⑨（介護保険制度の動向）			
	10	介護実践に関する諸制度①（個人の権利）			
	11	介護実践に関する諸制度②（個人の権利）			
	12	介護実践に関する諸制度③（保健・医療）			
	13	介護実践に関する諸制度④（貧困・生活困窮）			
	14	介護実践に関する諸制度⑤（就労・雇用）			
	15	社会保障制度のふりかえり			
評価方法		テストによる評価と授業への向き合い方を総合的に評価する。			
テキスト		最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 2 第2版			
参考文献		介護福祉士国試ナビ			
留意事項		テストは上記以外の回で実施する。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活と音楽		講義	2	前期	川崎 晶子
授業の目標	高齢者や障害者と音楽の関わりを理解して、今後に活かせるようにする。より多くのジャンルの歌の勉強をして、介護の現場で実践できるようにする。人間が一生の間に関わって触れる音楽について理解する。				
授業の概要	演習を通して、より多くのジャンルの歌を覚え、歌唱能力を身につける。 授業で学んだ内容を活かした音楽レクリエーションを展開する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	歌集作り			
	2	歌唱演習 流行歌			
	3	歌唱演習 流行歌			
	4	歌唱演習 童謡唱歌			
	5	歌唱演習 童謡唱歌			
	6	手作り楽器 器楽演奏			
	7	音楽に合わせた体操			
	8	音楽レクリエーションを展開するためには			
	9	体験発表準備			
	10	施設訪問① 体験発表（音楽レク展開）			
	11	歌唱演習 流行歌			
	12	歌唱演習 童謡唱歌			
	13	民謡 音と絵のコラボ			
	14	体験発表準備			
	15	施設訪問② 体験発表（音楽レク展開）			
評価方法		授業の参加状況			
テキスト					
参考文献					
留意事項		シラバス内容・順番を変更する場合があります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉論Ⅰ		講義	4	通年	匹田 美紀子
授業の目標	・歴史的な経緯から、介護とは何かを理解する。 ・生活を支援する専門職としての役割や専門性を理解する。 ・一人ひとりの生活に違いがあることを理解する。 ・介護職が行う生活支援の意義を理解する。 ・ＩＣＦの考え方、基本的特徴を理解する。				
授業の概要	・講義による知識の習得を中心に、事例や演習を交えて考える力・感じる力を養う。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション・介護福祉を取り巻く状況①	17	自立支援と介護予防①	
	2	介護福祉を取り巻く状況②	18	自立支援と介護予防②	
	3	介護福祉を取り巻く状況③	19	私たちの生活の理解	
	4	介護福祉の歴史①	20	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①	
	5	介護福祉の歴史②	21	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②	
	6	介護福祉の歴史③	22	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 生活のしづらさの理解とその支援	
	7	介護福祉の歴史④	23	健康管理の意義と目的①	
	8	介護福祉の基本理念	24	健康管理の意義と目的②	
	9	介護福祉における自立支援①	25	こころの健康管理①	
	10	介護福祉における自立支援②	26	こころの健康管理②	
	11	ＩＣＦの考え方①	27	身体の健康管理①	
	12	ＩＣＦの考え方②	28	身体の健康管理②	
	13	ＩＣＦの考え方③	29	労働環境の整備①	
	14	自立支援とリハビリテーション①	30	労働環境の整備②	
	15	自立支援とリハビリテーション②	31	まとめ	
	16	試験・まとめ	32	試験・まとめ	
評価方法		試験、提出物、授業態度、出席状況を総合的に評価			
テキスト		介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ③・介護の基本Ⅱ④（中央法規）			
参考文献		介護福祉士国試ナビ２０２５・２０２６（中央法規） 社会福祉士国試ナビ２０２５・２０２６（中央法規）			
留意事項		ノート・配布資料は、終講までまとめて保管してください。 提出物は、期限を厳守して下さい。 他教科の提出物の作成、試験勉強は厳禁です。 ※一部内容を変更することがあります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉論Ⅱ		演習	2	前期	長谷 由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人を生活する人として受け止め、一人ひとりの利用者の生活習慣を理解し、その人らしさを大切にするということとはどのようなことかを考え、表現できる。</li> <li>・居宅サービス、施設サービスの概要を制度と照らし合わせ理解できる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅サービスおよび施設見学をし、個々の状況に合わせた生活環境を学んでいく。</li> <li>・見学を通して、利用者ひとりひとりに合わせた介護の必要性に気づき、介護技術に必要な基本的な視点を学び身につけることを目的とする。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション、制度等について			
	2	居宅・施設サービスの概要について①【見学】障がい者通所施設（はばたき）			
	3	居宅・施設サービスの概要について②【見学】小規模多機能・デイサービス（ベナレス）			
	4	居宅・施設サービスの概要について③【見学】特別養護老人ホーム（北園啓生園） 施設概要の理解・デイサービスでの交流学习			
	5				
	6	居宅・施設サービスの概要について④【見学】はるとりの里・老健たいよう 老人保健施設・特別養護老人ホーム・通所サービスの見学、施設概要理解、交流学习			
	7				
	8	居宅・施設サービスの概要について⑤【見学】特別養護老人ホーム（昭和啓生園） 特別養護老人ホーム・通所サービスの見学、施設概要の理解・利用者との交流学习			
	9	居宅・施設サービスの概要について⑥【見学】 老人保健施設・デイケア（老健くしろ）の見学、施設説明、交流学习			
	10	居宅・施設サービスの概要について⑦【見学】 老人保健施設・デイケア（老健星が浦）の見学、施設説明、交流学习			
	11	居宅・施設サービスの概要について⑧【見学】 障がい者支援施設（丹頂の園）の見学、施設概要の理解、交流学习			
	12				
	13	居宅・施設サービスの概要について⑨【見学】 養護老人ホーム（長生園）の見学、施設概要の理解、交流学习			
	14				
	15	まとめ（発表）			
評価方法		レポート、見学・発表の取り組みなど総合的に評価します。			
テキスト		介護の基本Ⅱ 介護総合演習（中央法規）			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉専門職論		講義	4	通年	高橋 功成
授業の目標	急激な少子高齢化に伴う人口バランスの変化や推計を越えた認知高齢者や低所得高齢者、さらには、老老介護や 8050 問題等様々な社会問題によって、高齢者福祉や介護ニーズが多様化し、日本の福祉・介護施策の重要性が益々高まっているところである。 そんな現代社会において、介護福祉士が介護・福祉ニーズを専門性を発揮し、実践していくことが求められている。今授業では、介護福祉士の専門性の基盤である「倫理や責務」「知識や技術」を学んでいく。				
授業の概要	前期は介護福祉士の根拠である法や制度の基礎を理解した上で、介護福祉士の使命と専門職としての役割や実践および倫理について学びを深めていく。 後期は介護福祉士の倫理観や役割を基盤に、医療と福祉の連携や地域包括ケアシステムの中での介護福祉士の具体的実践とチームアプローチについて学び、さらには、介護福祉士が従事する環境や自身の安全についても理解を深めていく。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション・学びの導入	16	生活を支えるフォーマルサービス②	
	2	社会福祉士及び介護福祉士法①	17	生活を支えるフォーマルサービス③	
	3	社会福祉士及び介護福祉士法②	18	生活を支えるフォーマルサービス④	
	4	介護福祉士の活躍の場と役割①	19	地域連携①（意義と目的）	
	5	介護福祉士の活躍の場と役割②	20	地域連携②（各機関の理解と連携の実際）	
	6	介護福祉士に求められる役割とその養成	21	多職種連携・協働の必要性	
	7	介護福祉士を支える団体	22	多職種連携・協働に求められる基本的能力①	
	8	介護福祉士の倫理①（実践の倫理）	23	多職種連携・協働に求められる基本的能力②	
	9	介護福祉士の倫理②（実践の倫理）	24	保健・医療・福祉職の役割と機能①	
	10	介護福祉士の倫理③（倫理判断と対応）	25	保健・医療・福祉職の役割と機能②	
	11	介護福祉士の倫理④（倫理判断と対応）	26	多職種連携・協働の実際	
	12	日本介護福祉士会の倫理綱領	27	介護従事者の安全（健康管理の意義と目的）	
	13	生活を支えるインフォーマルサービス	28	介護従事者の安全（こころと身体の健康）	
	14	生活を支えるフォーマルサービス①	29	介護従事者の安全（労働環境の整備）	
	15	前期まとめ・試験	30	前期・後期まとめ・試験	
評価方法		テストによる評価を授業への向き合い方を総合的に評価する。			
テキスト		使用テキスト（最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ 3・Ⅱ 4 4 第2版）			
参考文献		介護福祉士国試ナビ			
留意事項					

※実務経験のある教員（社会福祉士、知的障害福祉司任用資格、児童指導員／老人福祉施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
コミュニケーション技術 I		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉実践におけるコミュニケーションの意義、目的を理解し、利用者や利用者を取り巻く人々との関係づくりの基本を学び、具体的なコミュニケーション技法などを習得する （適宜ロールプレイを行い、介護職としてのコミュニケーションのあり方について考える）</li> <li>・校外学習を通して実践からの学びを深め自己課題を表出できる。</li> </ul>				
授業の概要	介護を必要とする人の理解や援助的関係、コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族とのコミュニケーション能力を養う				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	介護におけるコミュニケーションとは			
	3	介護におけるコミュニケーションの対象			
	4	援助関係とコミュニケーション			
	5	コミュニケーション態度に関する基本技術（傾聴・受容・共感・距離）			
	6	言語・非言語・準言語コミュニケーション			
	7	目的別のコミュニケーション技術（動機付け・意思決定支援）			
	8	コミュニケーション実践学習（校外）特養百花苑			
	9	コミュニケーション実践学習（校外）特養百花苑			
	10	コミュニケーション実践学習（校外）有料老人ホーム歩々はすか			
	11	集団におけるコミュニケーション技術			
	12	家族への助言、指導、調整、関係づくり			
	13	家族関係と介護ストレスへの対応			
	14	コミュニケーション実践学習振り返り			
	15	まとめ・テスト			
評価方法		出席状況、授業態度、テストなど総合的に評価します			
テキスト		最新 第2版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 マンガとイラストでユル〜く学ぶ介護 利用者・家族の心をひらく「聴き方」「声かけ」のコツ			
参考文献		利用者とうまくかかわるコミュニケーションの基本（中央法規）おはよう21 他			
留意事項		シラバス内容および順番に変更があるかもしれません。 校外学習があるため日頃より体調管理・感染症対策に努めましょう			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅰ－①（家事・被服）		演習	1	後期	佐々木 以保子
授業の目標	介護サービスを提供する対象者の生活の質の維持・向上を支援する、基本的な知識技術を習得する				
授業の概要	家庭生活を維持していくために必要な家事や衣生活に関する知識・技術を深める				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 自立生活を支える家事			
	2	家庭経営・家計管理の介護			
	3	悪質商法、クーリングオフ制度			
	4	ごみ捨ての介護、プラスチック・衣類のリサイクル			
	5	洗濯の介護、洗濯マーク			
	6	繊維の種類の特徴、繊維の種類に適したアイロンの温度			
	7	洗濯の介護、洗剤・漂白剤の種類			
	8	衣類の洗い方			
	9	シミの種類に応じた処置			
	10	そうじ、風呂、トイレ、玄関の掃除の介護・注意点			
	11	衣類の衛生管理の介護、防虫、カビ、洗濯とクリーニング			
	12	寝具の衛生管理の介護、中間まとめ・練習問題			
	13	衣類の補修の介護			
	14	和服のたたみ方			
	15	生活時間の管理（アロマセラピーを使って）			
	16	テスト			
評価方法		テスト、実習、提出物、授業態度、出席			
テキスト		生活支援技術Ⅰ 中央法規			
参考文献					
留意事項		シラバス内容・順番が変更となる場合があります			



科目名			授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅱ－①			演習	3	通年	伊東 利恵
授業の目標	・安心・安全・安楽・自立支援・尊厳に配慮した介助法を習得する。 ・根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。					
授業の概要	尊厳の保持、自立支援の観点から個別に応じた介護実践ができる能力を養う。 自立に向けた日常生活動作、人生の最終段階における介護の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション 介護の原則	17	車いす移動介助②	33	移動移乗演習③
	2	基本的な視点	18	移動移乗演習①	34	人生の最終段階における介護
	3	自立に向けた移動の介護① (ボディメカニクス・姿勢・褥瘡)	19	移動移乗演習②	35	医療的な場面の関わり (睡眠・排泄他)
	4	自立に向けた移動の介護② (選択:杖、車いす・種類・留意点)	20	排泄演習①おむつ交換	36	自立に向けた入浴・清潔の介護② (清拭方法)
	5	自立に向けた食事の介護 (姿勢・環境・自助具・留意点)	21	排泄演習②おむつ交換	37	場面に応じた対応①
	6	自立に向けた排泄の介護 (方法の選択・用具・留意点)	22	入浴介助の実際①	38	場面に応じた対応②
	7	自立に向けた入浴・清潔の介護① (方法の選択・用具・留意点)	23	入浴介助の実際②	39	場面に応じた対応③
	8	自立に向けた身じたくの介護① (衣服の選択・着脱・留意点)	24	食事演習①	40	場面に応じた対応④
	9	休息・睡眠の介護 (ベッドメイキング・用具・留意点)	25	食事演習②	41	場面に応じた対応⑤
	10	基礎演習① (ベッドメイキング)	26	自立に向けた身じたくの介護② (口腔ケア 他)	42	場面に応じた対応⑥
	11	基礎演習② (ボディメカニクス)	27	身じたく演習①	43	場面に応じた対応⑦
	12	基礎演習③ (着脱介助)	28	身じたく演習②	44	場面に応じた対応⑧
	13	基礎演習④	29	排泄演習③Pトイレ	45	場面に応じた対応⑨
	14	体位変換① 仰臥位から立位	30	排泄演習④パッド交換	46	実技テスト
	15	体位変換② 仰臥位から立位	31	移動移乗演習①	47	筆記テスト
	16	車いす移動介助①	32	移動移乗演習②		
評価方法		出席状況、授業態度、レポート、テスト等で総合的に評価します。				
テキスト		最新介護福祉士養成講座 6 第2版 生活支援技術Ⅰ (中央法規) 最新介護福祉士養成講座 7 第2版 生活支援技術Ⅱ (中央法規)				
参考文献		お互いが歩み寄る介護実践45のヒント gakken				
留意事項		演習の授業時は、実習着を着用してください。 必要時マスクを着用してください。 シラバス内容、順番に変更があるかもしれません。校外学習を予定しています。				

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の人の支援		演習	1	後期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して一人ひとりに合った認知症ケアの方法を身につける。</li> <li>・実技演習を通して、認知症の方への日常生活における介助の方法を身につける。</li> <li>・福祉・介護アルツハイマーデー及び月間の催し物に参加し、専門職としての意識を高める。</li> </ul>				
授業の概要	<p>先に学んだ認知症疾患及び周辺症状などを振り返りながら、認知症の方が抱える生活課題や生活背景を理解して、専門的な知識を生かした認知症ケアを学ぶ。</p> <p>本人の思いなど個別性に応じた支援や地域とのつながりを考え、認知症ケアの実践力を養う。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 認知症ケアとは			
	2	認知症の方と関わる上での基本的態度			
	3	演習：生活場面に於ける認知症ケアとは			
	4	認知症の方とのコミュニケーションの実際（校外学習）グループホームふれ愛			
	5	校外学習の振り返り			
	6	地域での認知症ケア（DVD鑑賞）			
	7	認知症の方とのコミュニケーションの実際（校外学習）グループホームふれ愛			
	8	校外学習の振り返り			
	9	認知症の方とのコミュニケーションの実際（校外学習）ツクイDS			
	10	校外学習の振り返り			
	11	認知症の方とのコミュニケーションの実際（校外学習）ツクイDS			
	12	校外学習の振り返り			
	13	認知症マップについて（校外学習）			
	14	若年性認知症の人への支援（DVD鑑賞あり）			
	15	まとめ 小テスト			
評価方法		出席状況、授業姿勢、レポート内容、提出物の期限 等			
テキスト		ありません。随時資料を配布します。			
参考文献		認知症の理解（中央法規第2版） おはよう21 他			
留意事項		<p>シラバス内容、順番に変更があるかもしれません。</p> <p>土曜登校がある場合があります。（SOSネットワーク模擬訓練）</p> <p>校外学習がありますので、日頃より体調管理・感染症対策に努めましょう。</p>			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名			授業形態	単位	開講時期	担当者
介護過程Ⅰ			演習	3	通年	伊東 利恵
授業の目標	・その人らしい生活を支援するための知識・方法を習得する。 ・介護過程の意義と基礎的理解を習得する。 ・介護過程と多職種によるチームアプローチの重要性を知ることができる。					
授業の概要	・本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程の基礎を養う。 ・介護過程の一連プロセスを学ぶ。 ・生活支援の基本的な考え方を把握し、ICFの理論を理解する。					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション 生活支援の基本的な考え方①	16	まとめ・小テスト	31	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ③
	2	生活支援の基本的な考え方② 生活支援のポイント	17	生活支援とチームアプローチ 介護過程とケアマネジメント	32	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ④
	3	介護過程とは① 意義・目的	18	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	33	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ⑤
	4	介護過程とは② ICFの視点・介護過程の全体像	19	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：収集) ①	34	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ⑥
	5	介護過程とは③ 続 介護過程の全体像	20	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：収集) ②	35	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ⑦
	6	介護過程の理解：アセスメント ICF活用（情報収集）①	21	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：収集) ③	36	利用者の生活と介護過程の展開 (立案・実施) ①
	7	介護過程の理解：アセスメント ICF活用（情報収集）②	22	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：収集) ④	37	利用者の生活と介護過程の展開 (立案・実施) ②
	8	介護過程の理解：アセスメント 情報収集の記録方法	23	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：収集) ⑤	38	利用者の生活と介護過程の展開 (立案・実施) ③
	9	介護過程の理解：アセスメント (解釈・関連づけ・統合化) ①	24	実際の利用者の生活と介護過程の展開（アセスメント：収集）	39	利用者の生活と介護過程の展開 (立案・実施) ④
	10	介護過程の理解：アセスメント (解釈・関連づけ・統合化) ②	25	実際の利用者の生活と介護過程の展開（アセスメント：収集）	40	利用者の生活と介護過程の展開 (立案・実施) ⑤
	11	介護過程の理解：アセスメント (生活課題の明確化)	26	実際の利用者の生活と介護過程の展開（アセスメント：収集）	41	利用者の生活と介護過程の展開 (評価) ①
	12	介護過程の理解：計画の立案 目標設定・順位・内容・方法	27	実際の利用者の生活と介護過程の展開（アセスメント：収集）	42	利用者の生活と介護過程の展開 (評価) ②
	13	介護過程の理解・実施 利用者主体の実践・統一したケア	28	実際の利用者の生活と介護過程の展開（アセスメント：収集）	43	利用者の生活と介護過程の展開 (評価) ③
	14	介護過程の理解：実施 実施の記録方法	29	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ①	44	利用者の生活と介護過程の展開 (評価) ④
	15	介護過程の理解：評価 意義・記載方法	30	利用者の生活と介護過程の展開 (アセスメント：分析) ②	45	まとめ・試験
評価方法		出席状況、授業態度、提出物の内容及び期限、小テスト・試験				
テキスト		最新 介護福祉士養成講座 6 第2版 生活支援技術Ⅰ 第1章 最新 介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 第3章以外				
参考文献						
留意事項		進捗によってシラバスの内容及び順番に変更がある場合があります。				

科目名			授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習指導Ⅰ			演習	3	通年	長谷 由香
授業の目標	・他科目の学びの統合化により基本的な知識・技術を習得し、実習で知識・技術を活かすことができる。 また、知識・技術を再確認し目標を明確にして実習に向かい、自身の課題を明確化できる。 ・各自の実習先の取り組みを情報交換し、それぞれのやり方や考え方に興味を示し検討するなかで、柔軟に受け入れる姿勢を持ち、なぜそうするのかの科学的な根拠を学ぶことができる。 ・実習体験を通して、多職種協働の視点から、個々の生活支援の課題について多面的な視点で考えることができる。					
授業の概要	当科目では、①介護実習の指導②他科目での学びの統合化③多職種協働の意味と重要性の意識化④学習到達状況の把握と個別指導⑤養成教育全体の総まとめを目的として、450時間の介護実習の全体像を踏まえた上で、介護実習前後にボランティア活動への参加、介護技術の確認また実習報告会などを行い、自身の課題に気づき、そこに向き合って次の実習につなげていくことを目指し、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を展開する。					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション	16	事後指導②報告書作成	31	カンファレンス 演習
	2	通所施設見学・交流1	17	事後指導②振り返り（日誌）	32	実習態度・姿勢プレテスト
	3	通所施設見学・交流2	18	介護実習Ⅰ（2週）報告会	33	実習前実技テスト
	4	実習準備①書類確認・目標指導	19	事前準備①実習目的・入所施設概要	34	オリエンテーションについて
	5	実習準備②マナー講座(ｼｮﾌﾞｶﾌｪ)	20	事前準備②書類確認・目標指導	35	事前準備⑦自己覚知について
	6	事前準備③通所交流3	21	事前準備③目標・考察について	36	事前準備⑧施設訪問3
	7	事前準備④実習態度・マナー	22	事前準備④施設訪問1	37	事前準備⑨情報収集について
	8	事前準備⑤通所交流4	23	事前準備⑤観察と考察1	38	事前準備⑩施設訪問4
	9	実習態度・姿勢プレテスト	24	事前準備⑥施設訪問2	39	事前準備⑪記録・コミュニケーション
	10	事前準備⑥記録・目標指導	25	事前準備⑤観察と考察2	40	事後指導①振り返り（自己評価）
	11	事前準備⑦書類確認・姿勢態度	26	事前準備⑥記録・実習時の行動目標	41	事後指導②振り返り(日誌・情報収集)
	12	事前準備③実技テスト	27	実習Ⅱ事例報告会（聴講）	42	介護実習Ⅰ振り返り・まとめ
	13	事前準備⑥目標指導	28	実習Ⅱ事例報告会（聴講）	43	介護実習Ⅰ（4週）報告会
	14	事前指導⑦記録・実習時の行動目標	29	カンファレンスについて	44	介護実習Ⅱの目的と内容
	15	事後指導①振り返り（自己評価）	30	カンファレンス模擬演習	45	介護実習Ⅱへ向けて・介護観
評価方法		発表・受講態度など総合的に評価します。				
テキスト		最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規） 最新介護福祉士養成講座 9 介護過程（中央法規） 実習のしおり				
参考文献						
留意事項		授業前後の予習・復習が必須となります。提出物の期限をまもること。 毎回、実習ファイル・実習のしおりを持参する。内容を変更する場合があります。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習 I		実習	6	通年	伊東利恵・長谷由香・豊島節子
授業の目標	<p>【2週間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での生活を支える施設の役割及び利用者の日常生活について理解する。</li> <li>・学内諸学習を応用し、コミュニケーションや生活支援を行う能力を習得する。</li> <li>・多職種との協働の中で、介護職の役割と業務内容を理解する。</li> <li>・自分自身の目標や課題を明確化できる。</li> </ul> <p>【4週間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の流れを知り、基本的な生活支援技術を学ぶ。</li> <li>・実際の介護現場のあり方と個別ケアの方法及び関連職種との連携について学ぶ。</li> <li>・自己の実践した介護について客観的に振り返り、自分自身の目標や課題を明確化できる。</li> </ul>				
授業の概要	<p>①対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得すること。</p> <p>②本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を養うこと。</p>				
授業計画	学習内容・テーマ				
	<p>実習先：【2週間】～コミュニケーション技術、基礎的生活支援技術 通所リハビリテーション・通所介護 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設</p> <p>実習先：【4週間】～介護過程（情報収集の実施）、基礎的生活支援技術 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設</p> <p>※適時、実習先巡回、およびカンファレンスに参加し、指導アドバイスを行う。</p>				
評価方法		<p>実習施設評価表に基づく評価、学校評価 実習態度、記録など総合的に評価します</p>			
テキスト		介護総合演習（中央法規）			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の理解Ⅰ		講義	2	前期	五十嵐 あや子
授業の目標	●認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解できる。 ●ケアの理念（自立支援・自律支援・尊厳の保持）の重要性を理解できる ●本人主体の理念に基づいた適切な全人的ケアを提供できる知識を理解し、認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行う知識を習得できる。				
授業の概要	●認知症の定義・認知症の人の医学・行動・心理的理解 ●認知症の人の体験・生活の理解と認知症の進行に応じたかかわりかた（認知症の人の生活および家族や社会とのかかわりへの影響を理解） ●演習の進行に伴う役割（司会・書記・発表者）を経験し、チームワーク・リーダーシップを理解				
授業計画	回	学習内容・テーマ		演習内容・参考資料など	
	1	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か		資料「認知症を正しく…」	
	2	脳のしくみ 認知症の人の心理		資料「社会脳科学」 演習「生活支援の理解」	
	3	認知症の症状（中核症状・生活障害の理解）		演習 2-1・2-2 資料「認知症施策推進大綱」	
	4	認知症の症状（BPSD）認知症の診断と重症度		資料「HDS-R の実際」「認知症高齢者判定フローチャート」	
	5	認知症の原因疾患と症状・生活障害		資料「四大認知症」「新病名」	
	6	若年性認知症・認知症の治療薬・予防		演習 2-4・2-6 「薬剤療法」	
	7	認知症を取り巻く状況		「日野原重明先生の世界」「認知症基本法」	
	8	認知症ケアの理念と視点		資料「フィーリングの世界」	
	9	認知症当事者の視点からみえるもの		DVD 視聴「一人のこころを見つめるケア」 演習 3-3	
	10	認知症ケアの実際（パーソンセンタードケア）		資料「私は誰になっていくの？」 演習 4-1	
	11	認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール		資料「認知症ポジティブ」	
	12	認知症の人とのコミュニケーション		資料「コミュニケーションの実際」	
	13	認知症の人へのケア（食事排泄等）		資料「七つの良い言葉」「食行動」	
	14	認知症の人へのさまざまなアプローチ		資料 避難所で生活する認知症の人家族への支援ガイド	
	15	終末期医療と介護 環境づくり		資料「グリーフケア」・音読「手紙」 演習 4-4	
	16	筆記試験（評価）			
評価方法		筆記試験・出席率・受講態度			
テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解			
参考文献		新介護福祉士養成講座 1 1 社会脳科学（伊古田医師）		初任者研修（職務の理解の DVD） 認知症ポジティブ（山口晴保著）	
留意事項		必要機材・物品については事前に連絡			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害の理解Ⅰ		講義・演習	2	通年	金子一也・阿部みつゑ・長谷由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得する。障害のある人の生活を理解し自立に向けた生活支援につなげるための介護技術を学ぶとともに家族に対する支援、連携と協働について学ぶ。</li> <li>・身体内部における原因疾患をよく理解するとともに重症度も考慮に入れ利用者の介護にあたる上での注意点について理解し、自分の言葉で具体的に表現できる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害を持つ人を理解するため、障がい者支援施設での体験や具体的な事例を取り入れグループ討議を行い、障害を持つ人の生活を多角的に理解し、講義で理解し学んだことを述べる場を持ち、自己の考えを言語化することを目指す。</li> <li>・障がい者福祉に関連する制度を学び、知識、思考力を身につけることを目指す。</li> <li>・医療職と連携協力していくための、心肺機能の基本を学び実際の具体的援助方法を身につけることを目指す。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・障害とは何か【生活介護事業所あゆみ見学・体験】			
	2	障害のある人の生活の理解①【生活介護事業所あゆみ見学・体験：6月】			
	3	障害のある人の生活の理解②【生活介護事業所あゆみ見学・体験：10月】			
	4	障害のある人の生活の理解③【生活介護事業所あゆみ見学・体験：2月】			
	5	障害のある人の生活の理解④難病（釧路保健所）			
	6	障害のある人の生活の理解⑤難病（釧路保健所）			
	7	障害の概念・基本理念（金子）			
	8	障がい者福祉に関連する制度①（金子）			
	9	障がい者福祉に関連する制度②（金子）			
	10	障がい者福祉制度と介護保険制度①（金子）			
	11	障がい者福祉制度と介護保険制度②（金子）			
	12	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活①（阿部）			
	13	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活②（阿部）			
	14	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活③（阿部）			
	15	膀胱・直腸機能障害のある人の生活④（阿部）			
評価方法		受講態度 レポート 記述試験			
テキスト		障害の理解（中央法規） 生活支援技術Ⅲ（中央法規） 社会の理解（中央法規）			
参考文献		国試ナビ（中央法規） こころとからだのしくみ（中央法規） 他			
留意事項		※内容が変更になる場合があります。			

※実務経験のある教員

金子（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士／障がい者支援施設勤務）

阿部（看護師／病院勤務経験）

長谷（看護師／病院勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみⅠ		講義・演習	4	通年	五十嵐 あや子
授業の目標	●介護技術の根拠となるこころとからだのしくみを介護実践と関連づけて理解できる ●介護における安全への留意点をこころとからだのしくみから理解できる ●人体の構造や機能を理解するための基礎的な知識を習得できる				
授業の概要	●介護実践の根拠と、人間の基本的欲求や生命維持のしくみなどを学ぶ ●利用者の生活を支える介護実践（食事・排泄・身じたく、睡眠など）との関係を学ぶ ●人体の構造や機能についての基礎的な知識を解説し、介護実践との関連を学ぶ				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	健康とは何か	17	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	
	2	人間の欲求とは	18	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②	
	3	自己実現と尊厳	19	食事に関連したこころとからだのしくみ①	
	4	こころのしくみを理解する①	20	食事に関連したこころとからだのしくみ②	
	5	こころのしくみを理解する②	21	食事に関連したこころとからだのしくみ③	
	6	からだのしくみを理解する①	22	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
	7	からだのしくみを理解する②	23	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
	8	からだのしくみを理解する③	24	身じたく清潔保持のまとめ	
	9	からだのしくみを理解する④	25	排泄に関連したこころとからだのしくみ①	
	10	からだのしくみを理解する⑤	26	排泄に関連したこころとからだのしくみ②	
	11	からだのしくみを理解する⑥	27	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	
	12	移動に関連したこころとからだのしくみ①	28	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②	
	13	移動に関連したこころとからだのしくみ②	29	人生の最終段階のケア①	
	14	移動に関連したこころとからだのしくみ③	30	人生の最終段階のケア②	
	15	移動に関連したこころとからだのしくみ④	31	筆記試験（評価）	
	16	筆記試験（評価）	32	人体の構造と機能の基礎的な知識　まとめ	
評価方法		筆記試験・出席率・受講態度			
テキスト		中央法規　介護福祉士養成講座ⅠⅠ　こころとからだのしくみ			
参考文献		成美堂出版　ぜんぶわかる人体解剖図・からだの事典			
留意事項					



科目名			授業形態	単位	開講時期	担当者
医療的ケア			講義	4	通年	長谷 由香
授業の目標	・医療職との連携のもとで医療的ケアを安全、適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。					
授業の概要	・基礎的知識を身につける ・実施時の留意点や緊急時の対応（実践的知識の習得） 解剖学的な基礎知識から医療的ケアの手順、技術へと知識を積み重ね、次年度の基本研修（演習）につなげる。					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	人間の尊厳と自立・医療の倫理1.0 介護職員と医療的ケア0.5	10	呼吸のしくみとはたらき 1.5	24	消化器系のしくみとはたらき 1.5
	2	保健医療制度 1.0 医療行為に関する法律 0.5	11 12	いつもと違う呼吸状態 1.0 喀痰吸引とは 1.0 痰の吸引で用いる器具・機材とそのしくみ 1.0 （※演習：吸引器具・機材）	25 26	消化吸収とよくある消化器の症状 1.0 経管栄養とは 1.0 こどもの経管栄養について 1.0
	3	チーム医療と介護職員との連携 0.5 感染予防・職員の感染予防 1.0 （※演習：手洗い）	13 14	人工呼吸器と吸引 1.0 人工呼吸器と吸引 1.0 子どもの吸引について 1.0	27	経管栄養に必要なケア 1.0 利用者や家族の対応、説明と同意 0.5
	4	療養環境の清潔、消毒法 減菌と消毒 1.5	15	呼吸器系感染と予防 1.0 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 0.5	28 29	経管栄養に関する感染と予防 1.0 経管栄養用いる器具機材とそのしくみ、清潔の保持 1.0 注入する内容に関する知識 1.0 （※演習：器具・機材）
	5	急変状態について 0.5 身体・精神の健康 1.0	16 17	痰の吸引に伴うケア 1.0 痰の吸引により生じる危険事後の安全確認 1.0 急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0	30 31	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 1.0 急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0 報告及び記録 1.0
	6	健康状態を知る項目 1.5 （※演習：バイタル測定）	18 19	急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0 報告及び記録 1.0 吸引の技術と留意点 1.0 （※演習：喀痰吸引）	32 33 34 35	経管栄養実施上の留意点 1.0 経管栄養の技術と留意点 ①1.5 ②1.5 ③1.0 ④1.0 （※演習：経管栄養）
	7 8	痰の吸引や経管栄養の安全な実施 2.0 (1.0×2回)   まとめ	20 21	吸引の技術と留意点 1.5 吸引の技術と留意点 1.5		基本研修（講義）：50 時間
	9	修了試験 1.0	22 23	吸引の技術と留意点 1.0 救急蘇生法 2.0 (1.0×2)		修了試験：1 時間 まとめ：30 分   計：35 コマ
	評価方法		受講態度（知識・技術の習得、理解、積極性）   筆記試験			
テキスト		「医療的ケア」中央法規				
参考文献						
留意事項						

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
医療的ケア演習		演習	—	後期	脇本 めぐみ 長谷 由香
授業の目標	・医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する（安全管理体制の確保、観察判断、実施準備、ケアの実施、結果確認報告、片付けがしっかり行うことができる）				
授業の概要	・たんの吸引をシミュレータを用いて、効果的に演習でき一人で実施できる ・経管栄養をシミュレータを用いて、効果的に演習でき一人で実施できる ・救急蘇生法をシミュレータを用いて演習できる				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	たんの吸引（口腔内） 1 人 5 回以上		16	経管栄養（胃・腸ろう） 1 人 5 回以上
	2	たんの吸引（口腔内） 1 人 5 回以上		17	経管栄養（胃・腸ろう） 1 人 5 回以上
	3	たんの吸引（口腔内） 1 人 5 回以上		18	経管栄養（胃・腸ろう） 1 人 5 回以上
	4	たんの吸引（口腔内） 1 人 5 回以上		19	経管栄養（胃・腸ろう） 1 人 5 回以上
	5	たんの吸引（口腔内） 1 人 5 回以上		20	経管栄養（胃・腸ろう） 1 人 5 回以上
	6	たんの吸引（鼻腔内） 1 人 5 回以上		21	経管栄養（経鼻） 1 人 5 回以上
	7	たんの吸引（鼻腔内） 1 人 5 回以上		22	経管栄養（経鼻） 1 人 5 回以上
	8	たんの吸引（鼻腔内） 1 人 5 回以上		23	経管栄養（経鼻） 1 人 5 回以上
	9	たんの吸引（鼻腔内） 1 人 5 回以上		24	経管栄養（経鼻） 1 人 5 回以上
	10	たんの吸引（鼻腔内） 1 人 5 回以上		25	経管栄養（経鼻） 1 人 5 回以上
	11	たんの吸引（カニューレ） 1 人 5 回以上		26	救急蘇生法 1 人 1 回以上
	12	たんの吸引（カニューレ） 1 人 5 回以上		27	救急蘇生法 1 人 1 回以上
	13	たんの吸引（カニューレ） 1 人 5 回以上		28	
	14	たんの吸引（カニューレ） 1 人 5 回以上		29	
	15	たんの吸引（カニューレ） 1 人 5 回以上		30	
評価方法		演習態度 各演習評価			
テキスト		「医療的ケア」中央法規			
参考文献		介護職員によるたん吸引等の研修テキスト			
留意事項		・知識・技術を確実なものにするため反復練習をする ・学生の進捗状況に合わせた演習グループとする			

※実務経験のある教員

脇本（看護師／病院勤務）

長谷（看護師／病院勤務経験）

介護環境科 2 年

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動Ⅱ		演習	2	通年	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団での関わりの中で、個々が社会人として必要な素養を身につける</li> <li>・ チームワークの大切さを学び、チームマネジメントできる能力を養い、協調性を学ぶ</li> <li>・ コミュニケーション能力の向上を図り、信頼関係構築について学ぶ</li> <li>・ 異なる価値観の存在を受け止め、エンパワメントを重視した関わりについて実践し学ぶ</li> <li>・ 介護福祉士国家資格取得に向けて意識を高めることができる</li> </ul>				
授業の概要	<p>コミュニケーション力の向上、多職種連携によるチームケアの実践力の向上、また制度を理解し柔軟に介護サービスに対応するための能力が求められる。当科目では、クラスレクリエーションや学校行事など学生が自ら企画・実践を行う場を受け、その中で、信頼関係の構築・エンパワメントを意識しながら積極的に人と関わり上記能力の向上を目指していく。</p> <p>自然などに触れ合う機会を設け、気づきを養う視点を高める。</p>				
授業計画	学習内容・テーマ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ガイダンスの実施（就職・教務など）</li> <li>・ クラスレクリエーション活動の打ち合わせ及び実施</li> <li>・ 学生会行事、学校行事の企画提案及び実施</li> <li>・ 校外学習活動の実施</li> <li>・ 外部研修会の聴講、参加</li> <li>・ 福祉関係全般における外部企業の催し物への参加</li> <li>・ 模試の実践</li> </ul>				
評価方法		授業態度（協調性、積極性、受容姿勢、出席状況）を重要視し、総合的に判断する			
テキスト		ありません			
参考文献					
留意事項		クラスは、チームと捉え、日頃から人との関わりに意識しましょう			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害者とスポーツⅡ		演習	1	前期	山本 悟
授業の目標	様々な身体的条件をもつ学習者にスポーツを提供するには、学習者の様々な特性にあったスポーツを提供する必要がある。本授業では、既存のスポーツをユニバーサル化したり、新しいスポーツを創作したりしながら、学習者に適切なスポーツ実践を処方する基礎を養う。				
授業の概要	様々な身体的条件をもつ学習者にスポーツを提供するには、学習者の様々な特性にあったスポーツを提供する必要がある。本授業では、ゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲーム、ニュースポーツについて、ユニバーサル化したり、新しいスポーツを創作したりしながら実践する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	準備運動および様々なスポーツに共通する動きづくり			
	2	ゴール型ゲームのユニバーサル化と実践①			
	3	ゴール型ゲームのユニバーサル化と実践②			
	4	ゴール型ゲームのユニバーサル化と実践③			
	5	ネット型ゲームのユニバーサル化と実践①			
	6	ネット型ゲームのユニバーサル化と実践②			
	7	ネット型ゲームのユニバーサル化と実践③			
	8	ベースボール型ゲームのユニバーサル化と実践①			
	9	ベースボール型ゲームのユニバーサル化と実践②			
	10	ベースボール型ゲームのユニバーサル化と実践③			
	11	ニュースポーツのユニバーサル化と実践①			
	12	ニュースポーツのユニバーサル化と実践②			
	13	ニュースポーツのユニバーサル化と実践③			
	14	ユニバーサルスポーツの創作と実践①			
	15	ユニバーサルスポーツの創作と実践②			
評価方法		出席状況、授業での活動状況、レポートにより総合的に評価する。			
テキスト		必要に応じて資料を配付する。			
参考文献		日本障害者スポーツ協会（2012）障害者スポーツ指導教本 初級・中級（改訂版）ぎょうせい：東京 植木ら（2017）アダプテッド・スポーツ概論 東京教学社：東京			
留意事項		実技実習を行うゆえ運動に適した最適な服装で出席すること。 受講者の状況によって内容の順番をかえたり、アレンジしたりする。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
国家試験対策Ⅱ		講義	2	後期	金子一也・匹田美紀子
授業の目標	<p>急速な高齢化と世帯構造の変化や、推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会的な介護ニーズの増大に介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。</p> <p>介護福祉士を取得することを目標とした各学生の目標達成と、この時代の要請に応える介護の専門職である介護福祉士を1人でも多く輩出することを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>介護福祉士の専門性と実践の根拠として必要な社会と制度のしくみを日々の講義で学ぶことを前提として、その学びを介護福祉士国家試験の合格に結びつけるための受験対策の授業とする。</p> <p>具体的にはこれまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつくるための授業とする。</p> <p>国家試験の受験対策としての基礎的な内容とする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション・生活支援技術（匹田）		16	
	2	介護の基本①（匹田）		17	
	3	介護の基本②（匹田）		18	
	4	介護の基本③（匹田）		19	
	5	介護の基本④（匹田）		20	
	6	介護の基本⑤（匹田）		21	
	7	介護の基本⑥（匹田）		22	
	8	社会保障制度①（匹田）		23	
	9	社会保障制度②（匹田）		24	
	10	社会保障制度③（匹田）		25	
	11	障害の理解①（金子）		26	
	12	障害の理解②（金子）		27	
	13	障害の理解③（金子）		28	
	14	障害の理解④（金子）		29	
	15	障害の理解⑤（金子）		30	
評価方法		過去問題及び模擬問題による目標の達成度、習熟度を評価する。			
テキスト		プリント、介護福祉士ナビ2025、社会福祉士国試ナビ2026			
参考文献		介護福祉士国家試験過去問題集他			
留意事項		<p>提出物は、期限を厳守してください。</p> <p>ノート・プリント・配布資料は終講まで保管し、毎講持参してください。</p>			

※実務経験のある教員

金子（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士／障がい者支援施設勤務）

匹田（介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
国家試験対策Ⅲ		講義	2	後期	匹田 美紀子・伊東 利恵 豊島 節子・長谷 由香
授業の目標	<p>急速な高齢化と世帯構造の変化や、推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会的な介護ニーズの増大に介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。</p> <p>介護福祉士を取得することを目標とした各学生の目標達成と、この時代の要請に応える介護の専門職である介護福祉士を1人でも多く輩出することを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>介護福祉士の専門性と実践の根拠として必要な社会と制度のしくみを日々の講義で学ぶことを前提として、その学びを介護福祉士国家試験の合格に結びつけるための受験対策の授業とする。</p> <p>具体的にはこれまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつくための授業とする。</p> <p>国家試験の受験対策としての基礎的な内容とする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	社会保障制度④（匹田）			
	2	社会保障制度⑤（匹田）			
	3	社会保障制度⑥（匹田）			
	4	社会保障制度⑦（匹田）			
	5	社会保障制度⑧（匹田）			
	6	社会保障制度⑨（匹田）			
	7	社会保障制度⑩（匹田）			
	8	社会保障制度⑪（匹田）			
	9	社会保障制度⑫（匹田）			
	10	まとめ（匹田）			
	11	介護の基本・こころとからだのしくみ①（介護）			
	12	介護の基本・こころとからだのしくみ②（介護）			
	13	介護の基本・こころとからだのしくみ③（介護）			
	14	介護の基本・こころとからだのしくみ④（介護）			
	15	介護の基本・こころとからだのしくみ⑤（介護）			
評価方法		過去問題及び模擬問題による目標の達成度、習熟度を評価する。			
テキスト		プリント、介護福祉士ナビ2025、社会福祉士国試ナビ2026			
参考文献		介護福祉士国家試験過去問題集他			
留意事項		提出物は、期限を厳守してください。 ノート・プリント・配布資料は終講まで保管し、毎講持参してください。			

※実務経験のある教員

匹田（介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

伊東（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

豊島（社会福祉主事任用資格／障害児者支援施設勤務経験、児童養護施設勤務）

長谷（看護師／病院勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
アクティビティ・ケアⅡ		演習	1	前期	桂 裕二 阿部 素子
授業の目標	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、アクティビティ・ケアの実際を学ぶ。その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのか、方法をさらに理解し、その方法を踏まえて実践する。 適宜ゲストスピーカーを招いての実践報告や演習を取り入れ学びを深める。				
授業の概要	1年次のアクティビティ・ケアⅠの学びを更に深め、実践できるようになることを目指す。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	講師	日程	
	1	集団体操①（校外学習）	桂	4/7（金）3 講目	
	2	集団体操②（校外学習）	桂	4/7（金）4 講目	
	3	コミュニケーション～世代間交流～	宮下	5/16（金）3 講目	
	4	生活環境・人生歴～食～	田中(真)	5/30（金）3 講目	
	5	書道①	阿部(素)	7/10（木）1 講目	
	6	塗り絵	豊島	7/11（金）3 講目	
	7	書道②	阿部(素)	7/17（木）1 講目	
	8	書道③	阿部(素)	7/24（木）1 講目	
	9	民舞	豊島	7/25（金）3 講目	
	10	書道④	阿部(素)	8/28（木）1 講目	
	11	計画	桂	10/10（金）3 講目	
	12	立案	桂	10/10（金）4 講目	
	13	準備	桂	10/17（金）3 講目	
	14	実践	桂	10/17（金）4 講目	
	15	まとめ・テスト	桂	10/31（金）3 講目	
評価方法		受講態度、取組姿勢、レポート、発表を総合的に評価する			
テキスト					
参考文献		高齢者の楽楽アクティビティ・ケアの進め方			
留意事項		シラバス内容・順番に変更があるかも知れません。			



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係とコミュニケーションⅡ		講義・演習	2	後期	本間 咲江
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身に付け、介護実践に必要な視点を学ぶ</li> <li>・総合的な判断力及び豊かな人間性を養い、介護実践を支える教養を高める</li> <li>・チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養い、介護の質を高めるための知識を身に着ける</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の質を高める為に必要なチームマネジメントの基礎的な判断力及び豊かな人間性を養う</li> <li>・介護サービスの特性を求められるマネジメントを学ぶ</li> <li>・組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ、フォロワーシップ等チーム運営の基本を理解する</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	介護実践におけるチームマネジメントの意義 1. ヒューマンサービスとしての介護サービス			
	2	介護実践におけるチームマネジメントの意義 2. 介護現場で求められるチームマネジメント			
	3	介護実践におけるチームマネジメントの意義 3. 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み			
	4	ケアを展開するためのチームマネジメント 1. ケアを展開する為に必要なチームとその取り組み			
	5	ケアを展開するためのチームマネジメント 2. チームでケアを展開するためのマネジメント			
	6	ケアを展開するためのチームマネジメント 3. チームの力を最大化するためのマネジメント			
	7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 1. 介護福祉職のキャリアと求められる実践力			
	8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 2. 介護福祉職としてのキャリアデザイン			
	9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 3. 介護福祉職のキャリア支援・開発			
	10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 4. 自己研鑽に必要な姿勢			
	11	組織の目標達成のためのチームマネジメント 1. 介護サービスを支える組織の存在			
	12	組織の目標達成のためのチームマネジメント 2. 介護サービスを支える組織の機能と役割			
	13	組織の目標達成のためのチームマネジメント 3. 介護サービスを支える組織の管理			
	14	介護実践の為にチームについて考えてみる（GWを検討中）			
	15	テスト・まとめ			
評価方法		出席状況・授業態度・小レポート等			
テキスト		人間の理解（中央法規出版）その他			
参考文献		人間の理解（中央法規出版）その他			
留意事項		必要な資料等があれば事前に相談させていただきます。内容や順番は変更となる場合があります。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
児童福祉論		講義	2	後期	秋田 一哉 田仲 京子 豊島 節子
授業の目標	<p>子どもは「生きる権利」を持って生まれてくる。そして成長の原理によって心身ともに伸びやかに成長する。しかし、それを阻むさまざまな問題が存在するのも事実である。そういった問題を解決し、子どもの権利を保障するために、児童福祉法をはじめとする、児童福祉関連の法律や制度がある。子どもの本質を理解し、子どもの支援を考えていく作業は介護福祉の対象である高齢者や障害児・者を理解することに他ならない。確かな人間観を培うことをねらいとしたい。</p> <p>人間が備えている「感覚」「認知」「運動」という原理・原則を理解し、卒業後の現場にて運動支援という選択肢を持つ。</p>				
授業の概要	<p>基本的には講義形式で進めるが、時にDVDや資料も用いて、理解を深めたい。その際、常に自分に置き換えて「自分だったら」と考える視点を持ち、他者の考え方に触れることができるよう、グループのような演習も行う。</p> <p>「ライフキネティック」という認知運動プログラムを通して学ぶ。理論・実技を組み合わせることで実体験としての習得を目指す。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			講師
	1	オリエンテーション			豊島
	2	児童福祉の理念と概念・歴史的変遷			豊島
	3	児童福祉の制度と法体系			豊島
	4	児童福祉施設			豊島
	5	児童虐待防止と社会的養護の動向			豊島
	6	児童の人権擁護と児童福祉			田仲
	7	子どもの権利条約			田仲
	8	保育と子育て支援			田仲
	9	障害をもつ子どもと家族への支援			田仲
	10	保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク①			田仲
	11	保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク② ライフキネティックについて			秋田
	12	障害のある児童への支援①（感覚→視・聴・体性）			秋田
	13	障害のある児童への支援②（認知→記憶・知能・注意力）			秋田
	14	障害のある児童への支援③（運動→チェンジ（切り替え）・複合・円滑）			秋田
	15	障害のある児童への支援④実技テスト（プログラムメニューを作成）			秋田
評価方法		レポート、提出物、授業への取り組み状況などを総合的に評価します。（豊島・田仲） 実技・姿勢（秋田）			
テキスト		福祉小六法（豊島）必要に応じて提示する（田仲） ライフキネティック公式テキスト、プレゼン資料（秋田）			
参考文献					
留意事項		内容が変更になる場合があります プロジェクター、運動ができる服装で参加すること（秋田）			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
地域福祉論		講義	2	後期	小野 信一・伊東 利恵 釧路福祉関係者
授業の目標	①社会福祉を広い視野でとらえ、その上で地域福祉の基礎と全体的な枠組みを把握することができる。 ②地域福祉推進の担い手として、社会資源の理解、在宅福祉サービス等、地域を基盤としたフォーマル・インフォーマルサービスについて理解することができる。 ③地域における防災対策について意識を高めることができる。				
授業の概要	地域福祉の意義を理解してもらい、地域福祉推進の担い手としての介護福祉士の役割とは何かを学ぶ。また、在宅福祉サービスのあり方や地域を基盤とした援助のあり方を理解する。現代の時代背景を踏まえ、中核的推進組織である社会福祉協議会やコミュニティ・ソーシャルワーカーの現状と課題、在宅福祉サービスの現状と課題、さらには住民自身が地域福祉課題を解決していく主体的活動である「NPO活動」や「ボランティア活動」、「当事者組織」のあり方とその支援方法について学ぶ。適宜ゲストスピーカーを招いてディスカッションを実施する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	地域福祉の意義・目的			
	3	社会福祉協議会の位置づけと活動内容 ～中核的推進組織の活動・権利擁護～			
	4	釧路における地域・高齢者福祉の現状と課題			
	5	地域包括支援センターの役割			
	6	地域における社会資源とは 地域の担い手となる多様な活動①			
	7	地域における社会資源とは 地域の担い手となる多様な活動②			
	8	官民協働による生活困窮者の支援体制 ～自立生活の実現につながる支援～			
	9	介護職の視点から地域のあり方を知ろう① ～防災意識の基礎編～			
	10	介護職の視点から地域のあり方を知ろう② ～地域の防災対策を探る～			
	11	介護職の視点から地域のあり方を知ろう③ ～校外学習発表～			
	12	私たちが捉えた地域福祉活動とは（発表）			
	13	介護予防支援 ～住民等主体の通所サービス～			
	14	住民団体と地域社会について考えよう			
	15	まとめ			
評価方法		レポート課題・提出物内容・期限 60% 出席状況・受講態度 40%			
テキスト		必要時資料を配布します。			
参考文献					
留意事項		提出物については、期限を守りましょう。校外学習を予定しています。シラバス内容・順番に変更があるかも知れません。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
視覚障害者・聴覚障害者の支援		演習	1	後期	土岐勝江・長谷川由佳里
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話の学習を通して、聴覚障がい者への理解を深める。</li> <li>・手話で簡単な日常会話を行う。</li> <li>・手話で自己紹介をする。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字の知識、表記方法の習得を通じて、視覚障がい者に対する理解を深める。</li> <li>・点字の読み書きを身につける。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技を中心に行う。</li> <li>・基本の単語を学び、日常会話・自己紹介へとつなげる。</li> <li>・DVDを使用し「ろう者」の表現を読みとる。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字の歴史と概要</li> <li>・点字器の使い方</li> <li>・点字絵本の作成</li> <li>・点字の表記・規則の講義と演習</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	聴覚障がい者の特性、手話の特徴・指文字			
	2	名前・家族の表現			
	3	あいさつ・疑問文（名前をたずねる）			
	4	数字や時間の表現			
	5	いろいろな疑問文			
	6	趣味の表現			
	7	施設・場所の表現			
	8	自己紹介のまとめ、試験			
	9	点字のしくみ・点字器の使い方			
	10	点字の表記（かなづかい）			
	11	〃（数字・アルファベット）			
	12	〃（記号・文章）			
	13	〃（分かち書き）			
	14	点字絵本の作成			
	15	〃			
評価方法		手話：受講態度、表現・読み取り試験、筆記試験 点字：受講態度、提出物（宿題）			
テキスト		今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう！」／「初めての点訳」第3版			
参考文献					
留意事項		「DVD」使用：手話奉仕員養成講座（手話）			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
リスクマネジメント論		講義	2	前期	長谷 由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解し、介護福祉現場の実際の場面を多角的に分析する中から、安全対策の必要性について述べることができる。</li> <li>・介護従事者自身が心身ともに健康に就労継続するために、介護福祉実践するための健康管理方法を具体的に取り上げるとともに、労働環境の管理の重要性について述べるができる。</li> </ul>				
授業の概要	自律・自立した介護福祉士となることを念頭に、「求められる介護福祉士像」に掲げられる、「本人が望む生活を支える」や「QOLの維持・向上」の視点など、利用者の「生活」を支えるという視点から、高い倫理性を保持し、専門的な活動を行うために必要なリスクマネジメント能力の獲得を目指す。尊厳・倫理の保持の視点から、事例の検討を行い、実践に照らし合わせて学びを深めていくことを目指す。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	事故防止、安全対策①			
	3	事故防止、安全対策②			
	4	事故防止、安全対策③			
	5	感染管理のための対策①			
	6	感染管理のための対策②			
	7	介護における安全の確保			
	8	服薬管理とリスクマネジメント			
	9	事故防止、安全対策④			
	10	事故防止、安全対策⑤			
	11	介護従事者の心身の健康管理の重要性①			
	12	介護従事者の心身の健康管理の重要性②			
	13	介護福祉士の働き方			
	14	介護とは何か			
	15	まとめ・試験			
評価方法		記述試験、受講態度、授業ごとに提出する振り返りレポートの内容			
テキスト		4 介護の基本Ⅱ（中央法規） 福祉現場のための感染症対策入門感染症の基本知識から新型コロナウイルス対応まで			
参考文献					
留意事項		内容が変更になる場合があります			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
コミュニケーション技術Ⅱ		演習	1	前期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション障害のある人の特性に応じたコミュニケーションの知識・技術を習得する。</li> <li>・介護におけるチームコミュニケーションの基本的な知識と技術を習得する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>対象者を理解したうえで具体的なコミュニケーション技法を習得する。ロールプレイ、グループ学習を通しコミュニケーションのあり方を学ぶ。</p> <p>チームコミュニケーションでは情報の共有化の意義を理解し、具体的な方法を学ぶ。</p> <p>（報告、連絡、相談・記録・会議・情報の活用と管理・事例検討など）</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	コミュニケーション障害への対応への基本①			
	2	コミュニケーション障害への対応への基本②			
	3	コミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害			
	4	コミュニケーション障害のある人への支援② 聴覚障害			
	5	コミュニケーション障害のある人への支援③ 失語症・構音障害			
	6	コミュニケーション障害のある人への支援④ 認知症			
	7	コミュニケーション障害のある人への支援⑤ うつ病・統合失調症			
	8	コミュニケーション障害のある人への支援⑥ 知的障害・発達障害			
	9	コミュニケーション障害のある人への支援⑦ 高次脳機能障害			
	10	コミュニケーション障害のある人への支援⑧ 肢体不自由・重症心身障害			
	11	コミュニケーション障害のある人への支援⑨ 事例 【ディスカッション】			
	12	介護におけるチームコミュニケーション①（記録・報告・連絡・相談）			
	13	介護におけるチームコミュニケーション②（会議・報告と申し送り）			
	14	介護におけるチームコミュニケーション③（事例検討・情報の活用と管理）			
	15	定期試験			
	16	まとめ			
評価方法		試験（筆記） グループ討議の参加状況 レポート			
テキスト		コミュニケーション技術（中央法規出版）			
参考文献		「障害の理解」（中央法規出版） 対人援助とコミュニケーション（中央法規出版）			
留意事項		グループワーク・ディスカッション、ロールプレイなどの参加型授業を行うため積極的な態度で受講する。※内容が変更になる場合があります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅰ―② 食生活		演習	1	通年	村山 恵子
授業の目標	高齢者の生活を支える上で食事には、重要な役割があることを理解し、身体状況に合わせた安全な食事提供ができる知識や技術を習得する。				
授業の概要	食生活の基本知識と、高齢者の身体状況を理解した上で調理の基本や調理実習で実際の食事を作り、目で見て食べて理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	食生活の基本知識			
	2	調理実習① 調理の基本について			
	3	〃 〃			
	4	調理実習② 食べやすい食事の工夫			
	5	〃 〃			
	6	調理実習③ 春の行事食			
	7	〃 〃			
	8	調理実習④ 高齢者に喜ばれる食事			
	9	〃 〃			
	10	調理の支援についてのまとめ テスト対策			
	11	筆記テスト			
	12	国家試験対策①			
	13	国家試験対策②			
	14	国家試験対策③			
	15	国家試験対策④			
	16	国家試験対策⑤			
評価方法		演習態度、筆記テスト、出席数			
テキスト		生活支援技術Ⅰ（中央法規）			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅰ－③ 住環境		演習	1	後期	三浦 啓・村上 智実
授業の目標	居住環境の整備に基本となる建物に対する理解 居住環境と介護の関係性の理解 福祉用具について知識と使用方法を学ぶ				
授業の概要	・テキストに沿った講義、実際の福祉施設の見学 ・「生活支援技術Ⅰ」第4章第1節から第3節（シラバス12回～15回）				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	建物の基本			
	2	住まいの役割と機能			
	3	生活空間			
	4	快適な室内環境 1			
	5	快適な室内環境 2			
	6	安全に暮らすための生活環境			
	7	高齢者・障がい者の住まい			
	8	居住環境の整備における多職種との連携			
	9	スライドによる建物説明			
	10	施設見学			
	11	〃			
	12	住環境について学ぶ①			
	13	福祉用具について知識と使用方法を学ぶ①			
	14	住環境について学ぶ②（実技）			
	15	福祉用具について知識と使用方法を学ぶ②（実技）			
評価方法		授業態度、レポート			
テキスト		最新第2版・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規）			
参考文献					
留意事項		内容が変更になる場合があります			



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅱ－②		演習	2	通年	伊東 利恵
授業の目標	・根拠を明確にし、多様な利用者の状態像に適した生活支援技術の技法を学ぶ。 ・介護ロボットやＩＣＴの活用法を学ぶ。 ・対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。 ・利用者の自立・安全を確保した生活支援技術の応用を習得する。				
授業の概要	・実践の根拠に基づく説明ができる能力を身につけ、本人の主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ・各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ・介護分野における生産性向上の目的を理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	移動・移乗の介護（基礎復習）	17	移乗介助（ストレッチャー）	
	2	移動・移乗の介護（基礎復習）	18	差し込み便器を用いた排泄介助	
	3	移動移乗の介護（全介助）	19	清潔保持の介助（手浴・足浴）	
	4	福祉用具を活用した演習① （スライディングボード・シート）	20	福祉用具を活用した演習② （床走行式リフト）	
	5	衣服の着脱介助（全介助）前開き	21	多様な福祉用具を知る①（介護ロボット等）	
	6	衣服の着脱介助（全介助）被り	22	多様な福祉用具を知る②	
	7	排泄の介助（おむつ交換）	23	予防介護支援について	
	8	排泄の介助（おむつ交換）	24	事例問題（演習）根拠を明確に説明できる①	
	9	身じたくの介護（洗面・ひげそり・整髪）	25	事例問題（演習）根拠を明確に説明できる②	
	10	食事の介助（一部介助～全介助）	26	事例問題（演習）根拠を明確に説明できる③	
	11	口腔ケア介助（義歯装着・ブラッシング）	27	事例問題（演習）根拠を明確に説明できる④	
	12	入浴の介助（洗髪・洗身・整髪）	28	事例問題（演習）根拠を明確に説明できる⑤	
	13	場面の一連の演習①	29	総まとめ	
	14	場面の一連の演習②	30	総まとめ	
	15	実践からの学び（ＡＤＬ全般）①	31	実技テスト	
	16	実践からの学び（ＡＤＬ全般）②	32	筆記テスト	
評価方法		出席状況、授業態度、レポート、テスト等を総合的に評価します。			
テキスト		最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術6・7（中央法規）			
参考文献					
留意事項		演習は実習着を着用してください。必要時マスクを着用しましょう。 演習時筆記用具を持参すること。シラバス内容・順番に変更があるかも知れません。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅲ		演習	1	前期	煙山雅彦・高野幸子・佐久間貴史
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得し、介護の視点から障害のある人の周囲の環境を配慮する演習と講義（煙山）</li> <li>・知的障害、発達障害、高次脳機能障害の最新の知見を紹介しながら、それぞれの障害の特性を理解し、その障害の特性に合わせた支援方法を理解することを目的とする（高野）</li> <li>・難聴者、補聴器装用者とのコミュニケーションの仕方。補聴器の実習を通して、補聴器の装用の仕方や電池交換などの操作性、補聴器の聞こえを確認していただきます（佐久間）</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動障害とは何かを理解し、その特性を理解する。また、障がい者の特性を知り、福祉用具の活用する。何のために介助するかを知り、演習を通して専門的技術を習得する。（煙山）</li> <li>・講義で紹介した知識の理解を深めるため、映像等を使いながら、具体的な支援の方法や支援の視点や考え方を知る（高野）</li> <li>・高齢者の聞こえと難聴について、補聴器を購入するまでの流れを、パワーポイントで説明。補聴器の取り扱いの実習。過去問題の解説（佐久間）</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			備考
	1	オリエンテーション（長谷）			
	2	知的障害への支援技術（高野）			
	3	発達障害者への支援技術①（高野）			
	4	発達障害者への支援技術②（高野）			
	5	高次脳機能障害への支援技術（高野）			
	6	合理的配慮について、まとめ（高野）			
	7	利用者の状況に応じた介護技術（煙山）			
	8	肢体不自由に応じた介護（煙山）			
	9	重症心身症に応じた介護①（煙山）			
	10	重症心身症に応じた介護②（煙山）			
	11	運動障害に応じた介護①（煙山）			
	12	運動障害に応じた介護②（煙山）			6回の授業終了後に試験あり（煙山）
	13	聴覚・言語障害、発達障害の人の支援①			鶴野支援学校 校外学習
	14	聴覚・言語障害、発達障害の人の支援②			鶴野支援学校 校外学習
	15	聴覚障がいと補聴器について（佐久間）			
評価方法		記述試験、出席状況、授業態度、レポート等で総合的に評価する			
テキスト		生活支援技術Ⅲ（中央法規出版） リオネット補聴器カタログ			
参考文献					
留意事項		グループワークは主体的に行うこと 内容変更の可能性あり			

※実務経験のある教員

煙山（介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉主事／障がい者支援施設勤務）

高野（幼稚園教諭二級、保育士、知的障害援助専門員、公認心理士／障がい者支援施設勤務）

佐久間（認定補聴器技能者／補聴器センター勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護過程Ⅱ		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いたグループによる立案、討議、発表等を実施し、介護過程の展開の意義を習得できる。</li> <li>・事例を通して、利用者のニーズを明らかにするまでのアセスメントの過程を追実践する。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種協働・関係機関におけるチームアプローチについて学び、ケアプランと介護過程の違いを理解する。</li> <li>・事例を通して、利用者のさまざまな生活と介護過程展開の実際について理解する。</li> <li>・どのような方法で生活課題を解決しようとしているのか理解する。</li> <li>・各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</li> <li>・介護福祉士として、豊かな感性をみがき、人とのかかわりを大切にすることの重要性を理解する。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション ・介護過程の理解の確認			
	2	介護過程の展開① アセスメント（情報収集）			
	3	介護過程の展開② アセスメント（解釈・関連付け・統合化）			
	4	介護過程の展開③ 立案			
	5	介護過程の展開④ 実施・評価			
	6	記録の方法及び記載方法			
	7	介護過程の実践的展開①			
	8	介護過程の実践的展開②			
	9	介護過程の実践的展開③			
	10	介護過程の実践的展開④			
	11	介護過程の実践的展開⑤			
	12	介護過程の実践的展開⑥			
	13	発表			
	14	発表			
	15	まとめ			
評価方法		介護過程の展開への理解度、出席状況、授業態度、演習の積極的発言参加状況等総合的に評価します。			
テキスト		最新介護福祉士養成講座 第2版 介護過程 9 中央法規			
参考文献					
留意事項		グループワークでは、人の意見を批判するような発言は慎み、受容的な態度で進めていきましょう。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護過程Ⅲ		演習	1	前期	伊東利恵・長谷由香・豊島節子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の実践を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の一連の展開ができる。</li> <li>・文章表現の方法を理解し、報告書作成に取り組むことができる。</li> <li>・これまでの介護過程の授業の集大成として、介護過程の展開を文章化し、報告書としてまとめることができる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス計画や協働する多職種の専門計画の関連性、チームとして介護過程を展開する事の意義や方法を理解する。</li> <li>・介護事例研究の意義、方法などを理解し、実践力を養う。</li> <li>・介護過程の一連の流れから事例を通して過程の重要性を理解する。</li> <li>・個々に合わせた介護とその根拠を明確にできる力を養う。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	介護過程における事例研究の必要性			
	2	事例研究の進め方 ・論文の取り組み方・文章表現について			
	3	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	4	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	5	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	6	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	7	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	8	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	9	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	10	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	11	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	12	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	13	実習Ⅱ 実習報告書作成			
	14	実習Ⅱ 実習報告書発表			
	15	実習Ⅱ 実習報告書発表			
評価方法		出席状況、授業態度、報告書完成度など総合的に評価します。			
テキスト		最新介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 中央法規			
参考文献		最新介護福祉全書 介護総合演習 メジカルフレンド社			
留意事項					

※実務経験のある教員

伊東（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

長谷（看護師／病院勤務経験）

豊島（社会福祉主事任用資格／障害児者支援施設勤務経験、児童養護施設勤務）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習指導Ⅱ		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他科目との統合化を行い、介護観を確立できる。</li> <li>・実習先の取り組みを情報交換し、それぞれのやり方や考え方に興味を示し検討するなかで、柔軟に受け入れる姿勢を持ち、介護過程の展開を通して、科学的な根拠を学ぶことができる。</li> <li>・実習体験を通して、報告会等で多職種協働の視点から、個々の生活支援の課題について多角的な視点で考え、介護福祉士、また協働する専門職の専門性を習得する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>介護実習Ⅰでの学びを生かし、事前に実習施設について理解を深め、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実習で実践できるよう養う。</p> <p>質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践探求の意義とその内容を理解する。</p> <p>実習を振り返り、知識と技術を結び付け自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	実習進度、要項について			
	2	実習のすすめ方（オリエンテーションについて）・用紙説明			
	3	事前準備①日誌指導			
	4	事前準備②目標指導			
	5	事前準備③記録指導			
	6	事前準備④カンファレンスについて			
	7	実習前実技テスト			
	8	事前準備⑤実習へ向けて 1			
	9	事前準備⑥実習へ向けて 2			
	10	事前準備⑦実習へ向けて 3			
	11	事後指導①記録			
	12	事後指導②技術			
	13	実習報告会（5 週間）			
	14	実習報告会ディスカッション：GW			
	15	介護福祉士としての倫理・専門性の理解、多職種の専門性・連携、まとめ			
評価方法		出席状況、授業態度、報告書内容等 総合的に評価します。			
テキスト		介護総合演習（中央法規） 実習のしおり			
参考文献					
留意事項		シラバスの順番および内容が変更になるかも知れません。			

※実務経験のある教員（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士／老人福祉施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習Ⅱ		実習	5	通年	伊東利恵・長谷由香・豊島節子
授業の目標	<p>【5週間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一連の介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立の支援を実践的に学び、チームの一員として介護を遂行することができる。</li> <li>・チームケアや多職種連携を体験的に学び、介護福祉士の専門性を理解できる。</li> <li>・今までの実習を基礎として自己を客観視し、今後の課題と方向性を追求できる。</li> </ul>				
授業の概要	<p>①対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得すること。</p> <p>②本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を養うこと。</p>				
授業計画	学習内容・テーマ				
	<p>実習先：【5週間】～介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設</p> <p>介護過程の展開、生活支援技術の実践、チームケア・多職種連携の体験</p> <p>※適時、実習先巡回、およびカンファレンスに参加し、指導アドバイスをを行う。</p>				
評価方法		実習施設評価表に基づく評価、学校評価 実習態度、記録など総合的に評価します			
テキスト		介護総合演習（中央法規）			
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達と老化の理解Ⅰ		講義	2	前期	長谷 由香
授業の目標	<p>介護実践に必要な知識として、誕生から死に至るまでの人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響を理解し、ディスカッション、グループワークなどを通して、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。人間に起こる心身機能の変化、それらが日常生活に及ぼす影響について考える場とし現場での対応力・観察力につなげ、多職種協働の場で、介護福祉士として実践力を発揮することを目指し、福祉・介護の専門的な知識と技術を理解し、応用できるようになることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱを通して、人間の成長・発達の基礎的知識と、心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的利式に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応や健康な生活を考えていく。</p> <p>実習での経験や自己の生活経験を振り返り、他者の意見に共感する経験を得る中で、利用者の生活に密着した、実践に沿った学習を目指し、人間の成長・発達の基礎的知識の習得を目指す。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	人間の発達段階と発達課題(校外学習) 「人はそれぞれ？個性とは？」についての対話			
	3				
	4	人間の心身機能の成長と発達①愛着形成			
	5	人間の心身機能の成長と発達② (映画『月』DVD視聴)			
	6				
	7	人を知る① 『津久井やまゆり園事件』DVD 視聴			
	8	〃 ② 視点の相対化・共感、『死ぬ瞬間』動画視聴			
	9	〃 ③ ETV 特集『命と向き合った日々』視聴			
	10	老年期に多い疾病と生活①事例振り返り			
	11	老年期の特徴と発達課題(校外学習) 哲学対話「老いとは？発達し続けるのか？」を考える			
	12				
	13	老年期に多い疾病と生活②事例振り返り			
	14	老年期に多い疾病と生活③事例振り返り			
	15	まとめ・記述試験			
評価方法		筆記試験、授業レポート、授業態度を総合的に評価			
テキスト		発達と老化の理解 中央法規			
参考文献					
留意事項		実習へ向けての進度に合わせ、内容を変更する可能性があります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達と老化の理解Ⅱ		講義	2	後期	長谷 由香
授業の目標	<p>介護実践に必要な知識として、誕生から死に至るまでの人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響を理解し、ディスカッション、グループワークなどを通して、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。人間に起こる心身機能の変化、それらが日常生活に及ぼす影響について考える場とし現場での対応力・観察力につなげ、多職種協働の場で、介護福祉士として実践力を発揮することを目指し、福祉・介護の専門的な知識と技術を理解し、応用できるようになることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱを通して、人間の成長・発達の基礎的知識と、心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応や健康な生活を考えていく。</p> <p>実習での経験や自己の生活経験を振り返り、他者の意見に共感する経験を得る中で、利用者の生活に密着した、実践に沿った学習を目指し、人間の成長・発達の基礎的知識の習得を目指す。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	人間の成長発達と発達理論①（校外学習） 保育園・養護老人ホームの見学・交流			
	2				
	3	成長発達の基本的な特徴の理解：心の理論			
	4	子どもの成長発達の理解（校外学習） もりんどの森（フレンドようちえん）での交流学习			
	5				
	6	成長発達の基本的な特徴の理解：認知・身体			
	7	発達段階における特徴的な疾病や障害			
	8	成長発達の基本的な特徴の理解：社会性			
	9	〃：精神疾患・発達障害			
	10	〃：防衛機制			
	11	〃：道徳			
	12	人間の成長発達と発達理論（校外学習） 哲学対話「人の成長発達とは？」を考える			
	13				
	14	国家試験対策①			
	15	国家試験対策②・記述試験			
評価方法		筆記試験、授業レポート、授業態度を総合的に評価			
テキスト		発達と老化の理解 中央法規			
参考文献					
留意事項		実習へ向けての進度に合わせ、内容を変更する可能性があります。			



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の理解Ⅱ		講義	2	後期	本間 咲江
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の世界を知り、認知症の方が心地よく生活する為の支援方法や視点を学ぶ。</li> <li>・認知症ケアにおける家族の心情を理解し、寄り添う方法を学ぶ。</li> <li>・家族へのレスパイトケア・エンパワメントについて理解し、地域や専門職との連携について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	認知症の方への介護の基本視点を理解し、その視点を元に、個別支援とは、家族支援とは何かを学ぶ。 又、認知症の方を取り巻く様々な環境や、資源（家族を含む）を理解し、多職種連携の必要性や方法、介護福祉士（専門職）としての支援のあり方を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	認知症介護についての振り返り（認知症介護の基本視点・原則等）			
	2	介護者支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者の状況、介護力に影響をもたらす課題</li> <li>・認知症の人の家族の心理過程と葛藤について</li> </ul>			
	3	家族への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レスパイトケア・家族へのエンパワメントについて（サービス利用で休養を図るには）</li> </ul>			
	4	認知症の方と、その家族の想いについて考える			
	5	介護福祉職への支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい環境とは</li> <li>・離職防止対策（施設内研修プログラムとは）</li> </ul>			
	6	ケアモデル実施について <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで認知症のケアモデルを実施する為には</li> </ul>			
	7	ケアモデル実施について2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアに求められる事とは</li> </ul>			
	8	認知症の人の地域生活支援について <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムにおける認知症ケア</li> </ul>			
	9	多職種連携と協働について           多職種連携と協働の基本的な考え方、必要要素とは			
	10	認知症ケアに携わる多職種について			
	11	認知症の方・介護家族の想いを考え、介護福祉士としての役割を理解する（GWにするか検討中）			
	12	認知症ケアとストレスについて（セルフエンパワメントとストレスケアについて）			
	13	認知症の方の虐待・権利擁護について			
	14	認知症の方の世界を知る（認知症世界の歩き方を参考にGW）			
	15	テスト・まとめ			
評価方法		出席状況・授業態度・小レポート等			
テキスト		認知症の理解（中央法規出版）その他			
参考文献		認知症家族のところに寄り添うケア、認知症ケアのストレス対処法（松本一生・中央法規出版） 認知症の知りたいことガイドブック、高齢者の認知症とうつ病（長谷川和夫・長谷川洋・中央法規出版）、認知症世界の歩き方（寛祐介他・ライツ社）等			
留意事項		必要な資料等があれば事前に相談させていただきます。内容や順番は変更となる場合があります。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害の理解Ⅱ		講義・演習	2	後期	金子 一也
授業の目標	障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。また、障害福祉をめぐる制度についても理解を深める。				
授業の概要	①障害の基礎的理解 ②障害のある人に対する介護や自立への支援 ③家族への支援 ④連携と協働 地域におけるサポート体制の確立(構築)に向けて ⑤障害福祉の制度や法律の理解				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	障害の概念と障害福祉の基本理念①		障害の概念	
	2	障害の概念と障害福祉の基本理念②		障害福祉の基本理念	
	3	障害の概念と障害福祉の基本理念③		障害福祉の基本理念	
	4	障害者福祉に関連する制度①		障害福祉に関連する制度	
	5	障害者福祉に関連する制度②		障害福祉に関連する制度	
	6	障害者福祉に関連する制度③		障害福祉と介護保険	
	7	連携と協働①		地域のサポート体制	
	8	連携と協働②		チームアプローチ	
	9	家族への支援①		家族への支援とは	
	10	家族への支援②		家族の介護力の評価と介護負担の軽減	
	11	国試対策①		障害者関連法律の概要	
	12	国試対策②		法的な障害者の定義	
	13	国試対策③		障害福祉サービスの理解	
	14	国試対策④		児童福祉法との関係 障害児サービス	
	15	国試対策⑤		相談支援の概要と理解	
	16	テスト			
評価方法		授業への参加度・発言の積極性 テストを基にして行なう。			
テキスト		新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規			
参考文献		必要に応じてプリントを配布する			
留意事項		内容が変更になる場合があります			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみⅡ－①		講義・演習	2	前期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の場面に応じた「こころとからだのしくみ」および心身の機能低下、疾病、障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ。</li> <li>・介護実践における安全への留意点、医療職などとの連携の在り方について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場面（移動、身じたく、食事、入浴など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</li> <li>・生活をささえる介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。</li> <li>・介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 他科目との関連性と生活支援 自身の体の理解			
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ①			
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ②			
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ③			
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ④			確認テスト
	6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①			
	7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②			確認テスト
	8	食事に関連したこころとからだのしくみ①			
	9	食事に関連したこころとからだのしくみ②			
	10	食事に関連したこころとからだのしくみ③			
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ④			確認テスト
	12	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①			
	13	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②			
	14	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	15	定期試験			
	16	前期まとめ			
評価方法		試験（筆記） 受講態度 レポート			
テキスト		介護福祉養成講座「こころとからだのしくみ」中央法規出版			
参考文献		「介護スタッフのための医学知識」秀和システム 「からだの話」学研 「感染症対策入門」中央法規出版 「根拠からわかる介護技術の基本」新聞など			
留意事項		講義計画内容は一部変更の可能性がある。 随時演習・確認テスト			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみⅡ－②		講義・演習	2	後期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の場面に応じた「こころとからだのしくみ」および心身の機能低下、疾病、障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ。</li> <li>介護実践における安全への留意点、医療職などとの連携の在り方について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面（排泄・睡眠・終末段階など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</li> <li>生活をささえる介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。</li> <li>介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	排泄に関連したこころとからだのしくみ①			
	2	排泄に関連したこころとからだのしくみ②			
	3	排泄に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	4	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①			
	5	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②			
	6	睡眠に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	7	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①			
	8	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②			
	9	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③			
	10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④			
	11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤			確認テスト
	12	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例を通しての関連学習など）①			
	13	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例を通しての関連学習など）②			
	14	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例を通しての関連学習など）③			
	15	定期試験			
	16	後期まとめ			
評価方法		試験（筆記） 受講態度 レポート			
テキスト		介護福祉養成講座「こころとからだのしくみ」中央法規出版			
参考文献		「障害の理解」中央法規出版 「根拠からわかる介護技術の基本」中央法規出版 「からだの話」学研 「人体のはなし」秀和システム 新聞など			
留意事項		講義計画内容は一部変更の可能性がある。 随時演習・確認テスト			